

日南町第2回定例29年3月14日

平成29年 第2回(定例)日南町議会会議録(第4日)
平成29年3月14日(火曜日)

議事日程(第4号)

平成29年3月14日 午前9時開議

日程第1 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 一般質問

出席議員(11名)

1番	足古	羽都		出席議員(11名)	2番	恵比奈	礼	子
4番	古大	都西	勝	覚君	5番	山本	芳	昭君
6番	近久	藤代		人君	7番	坪倉	勝	君君
8番	村	上	仁	保君	9番	荒木		幸君
10番			安	志君	11番	福	田	博君
12番			正	敏君				稔君
				廣君				

欠席議員(なし)

欠員(1名)

局長	岩崎昭男	事務局出席職員職氏名	書記	井川夏実	君
町長	増丸木久青財田小	説明のため出席した者の職氏名	副町長	中村英明	君君君君君
教育長	原山下城葉原邊澤		総務課長	高安中	司君君君君
企画課長			教育次長	見達曾	智君君君君
住民課長			病院事業管理者	井林倉	政君君君君
農林課長			病院事務部長	千	聡君君君君
建設課長			福祉保健課長	幸	恵君君君君
保育園長			会計管理者	慎	江君君君君
農業委員会事務局長			地方創生専門監		一

午前9時00分開議

○議長(村上正広君)おはようございます。
ただいまの出席は11名であります。定足数に達していますので、平成29年第2回日南町議会定例会を再開いたします。
直ちに本日の会議を開きます。
本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

日程第1 一般質問

○議長(村上正広君)日程第1、一般質問を行います。
一般質問は、議事進行の都合と通告制になっている関係上、関連質問については制限をいたしますので、御協力をお願いいたします。
タブレット、一般質問答弁要旨ファイル1ページをお開きください。

8番、近藤仁志議員。
○議員(8番近藤仁志君)失礼します。地方創生が叫ばれ、石破大臣のもと全国津々浦々でさまざまな事例が紹介され、連日のようにマスコミにも大々的に取り上げられておりましたが、昨今でのトーンダウンも甚だしく、まれに紙面の片隅に登場する程度になっております。あのブームは何だったのでしょうか。一過性のものだったのか、随分過去のような出来事のように感じられます。
しかし、当事者たる本町は、一過性で終わらすわけにはなりません。総合戦略のもと、中心地域整備で道の駅ができ、I・Uターンの方をターゲットに定住促進住宅の整備、4

月には定住用地の分譲開始、保育料の無償化等々新たな事業を展開してこられました。これからは成果を問われると同時に、ブームの後遺症に悩まされない取り組みが試されてくるとも言えます。

動き出した新たなまちづくりを応援することは当然のことながら、地域集落が置き去りにされはしないかといった不安の声があるのも現実で、このたびはそういった視点から地域集落の長寿命化に向けた方向性と取り組みについて一般質問させていただきます。

まず最初に、来年度事業説明で公共交通の見直しがなされ、ダイヤ改正とあわせ町営バスの一部小型車運行、デマンドバスのフリー降車便、そしてタクシー助成の提案がなされたが、タクシー助成は本町の実態を把握されたものとは言いがたく、限られた予算とはいえない、今後の事業展開を検証する上で、予算内においても負担の地域間格差のない制度のもとでスタートをする制度に組みかえることはできないか、お伺いします。

続いて、施政方針で町長は、次世代につなげる行政、ついでに住みかとしての日南町を提唱されておられます。それは、長年見なれた風景と長年培った人間関係の継続に集約されるものではないかと考えます。農地を初め里山を守る組織と高齢者を中心に据えた福祉・防災を見据えた心と健康を応援する組織の活動が別々であることが不安、また不満のもとではないかと考えます。30年先に行く日南町として、このような問題を包括的に取り組む組織・体制づくりが急務と考えますが、その点はどうでしょうか。お伺いしたいと思っております。

冒頭の質問は、これで終わります。

○議長（村上 正広君）執行部の答弁を求めます。

増原町長。

○町長（増原 聡君）近藤仁志議員の御質問にお答えいたします。

まず、タクシー助成でありますけれども、このタクシー助成制度については、次の3つを目的とした政策であります。1つ目は、御近所同士で声をかけ合い、出かける仕組みを生み出し、ひとり暮らしの高齢者の外出支援につなげること。2つ目は、地元タクシー事業者の運賃収入の増加により、乗務員の所得向上を目指し、将来にわたって継続的に日南町にタクシー事業者を残していくことと同時に、運転手の確保が困難になっている現状を打開すること。最後に3つ目には、交通空白地帯が多い町営バス、デマンドバスに続く新たな町内の高齢者の移動手段とすることです。

御承知のように、日南町は少子高齢化が進んで、将来の人口構成や財政状況を見ながら、公共交通体系全般のあり方を考え、現段階から準備をしていく必要があります。これを踏まえ、今年度、日南町交通総合計画を策定したところであり、このタクシー助成制度も新たに創設したところであり、このタクシー助成は本町の実態を把握されたものとは言いがたいという御指摘については、私は認識不足であるというふうに思っております。

私自身も、全てのまち協といいますか、地域の自治会のまめな会等に既に参加をしております。議員がどの程度の会に参加されたかもしれませんけれども、例えば担当者につきましても、既にまめな会に参加しております。いわゆるまめな会というのは、一番タクシー助成を利用される層の会です。その中でも、例えば神戸上では、かつてから上石見タクシーがありましたので、デマンドバスよりもタクシー助成を望むという声もありました。また、阿毘縁の自治会では、バス停まででもタクシー助成をしてほしいというむら協からの会長さんからの要望もありました。そういうふうなことも踏まえた上で判断したものであります。認識が不十分であるというふうなことは少し言い過ぎではないかなというふうに思っております。

逆に現在、町内で抱えている各種問題をきちんと出された上で、企画課、福祉保健課双方で将来の日南町の交通体系全般の考え、また住民の皆様の御意見を諮りながら制度化したものであります。次年度の利用状況等を確認しながら、よりよい事業として成長させ、地域の住民の皆様にとって利用しやすい交通体系の構築を目指していきたいというふうに思っております。

なお、負担の地域間格差のない制度の下でスタートができないかということでもあります。今年度は、あくまで試行的に実施することとしておりますので、今後1年間を通じ、どのエリアの方がどのような利用をするのかということをしっかり分析をしながら、タクシー事業者等とこの事業の成功を支える上で協議をしていきたいというふうに思っております。

よく公平と公正という言葉が使われます。私は、この事業は公正だと思っております。しかし、公平という視点からすれば、近藤議員もたしか委員会の中で、400メートル離

日南町第2回定例29年3月14日

○町長（増原 聡君）多分近藤議員が言われたのは私は見えておりましたので、言い方は多分違うかもしれませんが、今おっしゃったような、生きがいタクシーに乗ればというふうなことはおっしゃったのは間違いのないと思っております。ただ、私も言いますのは、今の話を言いますと、端的な話は、バス停から近い人には出さなくてもいいという理論にもなりますよ。結局タクシーにどんどんどんどんタクシーに助成を出していくと、例えば熊塔とか小濁とか、そういう方々はタクシーを使われます。例えば近藤議員さんのところの前はバスが通りますと。じゃあ、そういう方はバスを使ってもらわないと困るわけです。バスも要るし、デマンドも要るし、タクシーも要るわけです。ですから、そのすみ分けがしっかりできるような形ができればいいわけですが、誰もがじゃあ自分は全部タクシーだと。でも、タクシーは今出てくるよと。じゃあ遠いところの人に優先して使ってもらいましょうとか、やはりそういうふうなちゃんとした町の中のすみ分けができていかないと、どれも残ってこない。

町としても、将来の若い人たちに負担を残さないように、ここでタクシー券をどっと出して、仮にタクシーだけ残った。でも、バスは残らない。デマンドも残らない。それでは結局公共交通は成り立たないわけでありまして。ですから、確かにいろんな形はあるでしょうけど、近い人たちがどんどんどんどん、バス停に近い人たちが実際使ってるねという実態が出たならば、それは今言われるようなことは確かにあるというふうには思います。ただ、私は、日南町民の考え方として、バスに近い方はできる限りバスを使って、遠い方はタクシーを使ってもらおうと。何か急なことがあったときにはタクシーを使おうというふうに私は、日南町民の方々は考えていただけるというふうに認識しております。

○議長（村上 正広君）8番、近藤仁志議員。

○議員（8番 近藤 仁志君）全くそのとおりでして、今先ほど最初に町長が答弁されたことと、ちょっと若干違うニュアンスだなと思って感じておりましたけど。要するにこの制度をやって、果たして遠い人に優先的に使うことができるかという。今、近くの方は我慢して、遠い人をなるべく優先して使えるような仕組みにしたいというような答弁でしたけど、果たしてこの制度で、遠い人が優先的に使う制度になっているかいけないか。

それと、このタクシー券をどっと出すという答弁もされましたけど、自分が要求してるのは、タクシー券をたくさん出ささいという要求ではないわけなんです。限られた予算であることは十分自分も承知してるわけですが、このたび1,900万の予算が計上されておりますけど、その予算内で結構ですので、来年に向けて、今後に向けて検証する上において、あらかじめ枚数は減らしてでも、遠い人、近い人、やはりある程度の工夫を凝らした制度が必要ではないかと問うているわけです。どうでしょう。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）当然どこかでは工夫というのが必要だというふうに思っております。先ほど言いましたように、デマンドバスにしても、今回フリー乗車というふうなことまで出てきたわけです。これもデマンドバスが始まって4年も5年多分たつわけですが、いろんな検証をしながら、より便利な方向に持っていくということをやっぱり考えていかないと、今言われますことは確かによくわかります。ですが、実際本当にどうなのかということは何となく話であります。しっかりやはり検証した上でやっていくということが行政というものは必要だと私は思っております。

仮に架空にやっただけで、自分は本当はタクシー券があれば、極端な例をしますよ。仮に言うと、日南町に救急車が出てるときに、急におなかが痛くなったと。バスの時間がまだあるからタクシーで行きたいと。そういうときにタクシーはすぐ多分来てくれれば非常にいいと思うわけです。極端な例をすれば、そういう話でして、やってみないとわからなないことがあると思うんです。それをしっかり検証をして、来年に生かしていくということが私は、繰り返しますが、必要だというふうに思っております。

○議長（村上 正広君）8番、近藤仁志議員。

○議員（8番 近藤 仁志君）検証することは本当に大事だと思います。でも、そのスタートの地点が、仮にあらかじめ想定できることは想定した上でのスタートをしたほうがより効果がはつきり検証できるんじゃないかと自分のほうは考えてるわけです。それから、利用者の方も、限られた助成の中で使い方はいろいろ工夫されると思うんです。近所の乗り合いを推し進めるという考えでしたけど、やはりどうしてもそれは工夫して、遠隔地の方は乗り合いをやっぱりしないと、せっかく町から補助をいただいたタクシー券をより有効的に回数をふやして使うためには、乗り合いを考えなくてははいけません。当然工夫されません。でも、要するに中心地に近いところの方は、はつきり言って単独利用も十分同じ負担でできるわけなんです。その差がやはり問題ではないかということです。

日南町第2回定例29年3月14日

やはり町民は十分工夫して使うわけなんです、有効的に使うために。でも、その価値と
いうものは、やはり1,000円圏内のタクシー利用者の方にとっては、1人で400円
券1枚ないし2枚で十分町からの補助を感謝するわけです。だけ、先ほどもおっしゃられ
ましたけど、この年代の方は大変もったいないとか、それからこういったことを、タクシ
一券をもらったということとをありがたいという、そういうことを強く感じられる、世代なん
です。だから、やはりもらったものを大切に、より有効的に使おうと工夫されるんです
よ。でも、やっぱりそこには地域間格差があっちゃんおかしと思うんですよ。やはり近く
の方の利用というか、同じ50枚なら50枚としたら、全然価値が違うと思うんです。ど
うでしょう。

○議長(村上 正広君) 増原町長。

○町長(増原 聡君) 言葉尻を捉えるようでは申しわけないわけですが、今おっしゃ
るように、今回の本当にタクシー助成をされる方というのは、もったいないとか、ありが
たいとか、そういうふうな多分意識を持たれてると私は思います。できるだけ使わないよ
うにしよう、バスを使おうと。それは、仮に遠くの方だろうと生山の方だろうと霞の方
だろうと、私は同じだと思っております。生山の方と、例えばじゃあ阿毘縁の方と意識が
違うのかという、そうではないと私は思っております。自分たちが使うことによって、
すぐ確かにタクシーで帰れるかもしれないけども、自分たちはできる限りバスの時間に合
わせて使っていくと、そう思われるのが私は日南町民だと認識をしております。

○議長(村上 正広君) 8番、近藤仁志議員。

○議員(8番 近藤 仁志君) ちょっと視点を変えますけど、先般の会で町長がおっしゃ
られたことに、このタクシー券を利用して町外への買い物、また町外への通院など、それ
は可能であるという答弁をされておりましたけど、自分はこの考えがちょっと理解できな
いわけですが。過疎自立促進計画の中でもうたっておられますけど、経済の地域内循環
を図っていくというようにうたっておられます。やはり町が補助するこのタクシー助成に
関しては、終点は日南町であるべきだと思うんですよ。

だから、仮に日野病院のほうに出かける方は生山駅までを終点としてタクシー券が使い
て、そこから公共交通を使って別の便で出られる。そうすることによって、日南町生山駅
周辺でひょっとしたら買い物されたり食事されたり、そういう機会が生まれりゃへんかと
思うんです、わずかな機会でも。それが直接日野病院のほうに行ってしまうと、日南町
でとまることのないような気がするわけですが、その辺の考えは変わりないですか。

○議長(村上 正広君) 増原町長。

○町長(増原 聡君) 病院に通われてる方は日南町の住民の方ですよ。仮に整形があ
るときは日南町でありますけども、ないときに通おうというふうなときに仮に使われたと
しても、それは生命のほうが大変ではないでしょうか、変な話ですけども。そこで自分は
足腰が不自由なのに生山駅のあの階段を上っており、そういうふうな町がいい町でしょ
うか。私はそう思いませぬ。私は、仮にタクシーでそういうことを使われても、1回使わ
れたら終わりかもしれませぬけども、でも、助かったなと。あのとき本当に腰が痛くて、
足が痛くて歩けなかつたけども、あんなところをホームの階段を上がらなくて、おりなく
て済んだなというふうな町のほうが人が住んでもらえる町ではないでしょうか。

最近、少し町内、町内という言葉が非常に多くありますけども、タクシーは町内の業者
であります。そこは落ちるわけあります。じゃあ、奥出雲町のときはどうなのかというの
は確かにありますけども。でも、仮にいうと、生活圏の中で少しでも安く買い物をしたい
という方がおられて、タクシーが1回でも安く使えるということがあったときに、それは
それでいいではないでしょうか。これまでもアップルハウスでも実際には奥出雲町のもの
を販売をされとったケースもあって、住民の方も助かっておったわけありますので、私
はそれぐらいの余裕を持った町でない、がちがちがちと全て町だ、町だ、町だ、町
だというようなことでは、町の人間は閉塞感を持って住めなくなるんじゃないでしょ
うか。

○議長(村上 正広君) 8番、近藤仁志議員。

○議員(8番 近藤 仁志君) 病院に関して緊急を要すること、そういう利用の方法、そ
れは当然だと思います。でも、100歩譲ったとして、買い物に関して、やはり日南町内
の中で買い物をしてもらう機会をふやさないと、日南町内の商店、スーパー、いろんなお
店が、横田であったり米子であったり、そういうお客さんを日南町内に取り戻すというき
っかけにもこれは使っていけないけんと思うわけです。そうした場合は、やはりタクシー
券を使ってどこまで行けますよというんでなしに、町内にお金を戻すための一つの手段と
してのこれは方法として利用していただきたいと思いますが、どうでしょう。

日南町第2回定例29年3月14日

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）当然そうであります。山上とか、どこどこいうわけじゃないですけど、3人、4人で駅前食堂に行かれて食事をとられて帰っておられるというケースも聞いておりますので、そういうふうに使ってもらってもいいわけです。

ただ、極論の話の中で、じゃあ阿毘縁に行ったときに温泉につかりに、例えば例ですよ。たまには温泉に入りたいと。じゃあ自分は阿毘縁に近いから、温泉に行きたいというときに、そこまでを余りせせこましく、それはだめですというふうなことが果たして本当にいい町なんでしょうということに行ってるわけです。極論の話です。全部使ってください、横田に行くのにどんどん使ってくださいと言ってるわけではないわけで、行かにやいけんときには、仕方がないけども、そういうふうな例もあってもいいんじゃないかと言ってるわけでありまして、そこは御理解をいただきたいというふうに思っております。

○議長（村上 正広君）8番、近藤仁志議員。

○議員（8番 近藤 仁志君）このタクシー券の利用にかけての条件整備というか、条件とか要綱とか、そういうものは既に完備されておりますか。

○議長（村上 正広君）山中専門監。

○地方創生専門監（山中 慎一君）現在、要綱ということで準備のほうはできております。今回の議会のほうで御承認いただいた場合に、決裁、手続等を取りたいというふうに考えております。

○議長（村上 正広君）8番、近藤仁志議員。

○議員（8番 近藤 仁志君）やはり特に買い物とか、そういった面で、せせこましい町であったらいけないという考え方と、極力町内に経済の循環を回そうという考え方と、それをせせこましいという考えではないと思うわけなんですよ、自分は。やはりなるべくいろんな機会を捉えて経済の循環を町内でやってもらうように、町民に対していろんな助成をするからこそ初めて意味があるわけなんです。その点どうでしょう。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）そういうふうな言い方をされるのであれば、全て町内の業者でないとだめだという、条例等においても厳しい判断をさせてもらうということをしてはいけないじゃないですか。片方では、下請はオーケーですよとか、そういう話をしていただいて、ここではだめですみたいな話をするのであれば、じゃあ厳しい判断をして、日南町から一円でも出たらだめだという判断をしますか。

○議長（村上 正広君）8番、近藤仁志議員。

○議員（8番 近藤 仁志君）これタクシー助成というのは、町内でお金を使ってもらおうと思って、自分たちもそれのお手伝いをするための助成だと思ってるわけですよ。外に使って、そんなに小さな考え方ではない。町外に買い物に行くことは十分できるわけなんですよ。みんなで乗り合わせて町外に行くのは、自分のあれとして行くことはできる。それを否定しとるわけじゃないんですよ、私たちは。ただ、タクシー券というものをどういうぐあいに捉えていくかということ、町の補助金であって、何を目的にこれを、いろんな意味で、町長は3つのことを言われました。近所の乗り合いを推し進めていこう、タクシー業者が収入を上げることによって雇用がふえたり台数がふえて、より一層町民の方に利便性が提供できるんじゃないかということ、それから交通空白地帯の解消ということ、それとあわせて、やはり自分は経済の町内循環というの大きな目的であるべきだと思うわけです。どうでしょう。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）私も興奮して言いましたので、近藤議員も興奮して少し論点が違って来たと思うんですけども。これは、あくまでも根本的には町内の経済というよりも、タクシーの維持と従業員の確保ということは確かにありますけども、いわゆる交通空白地帯、交通弱者と言われる方々の便利を図ろうということがもとの発端でありますので、町内の経済の循環というものも確かに派生的にはあるのかもしれないんですけど、そこに重点を置いてるわけではないです。

ただ、私が言いたいのは、そんなに誰かがどこかのタクシー券を使って阿毘縁に行ったしこなど、あいつはけしからんというふうなことではなくて、温泉に行ったしこなど、たまには温泉に行きなるともいいたし、出歩くのもいいなと、久しぶりに出歩きたったなというふうな、そういうふうな見方をしていただきたいとお願いをしとるだけであります。

○議長（村上 正広君）山中専門監。

○地方創生専門監（山中 慎一君）済みません、補足のほうで答弁のほうをさせていただきたいというふうに思っております。

もともと今回の政策自体が町内のみを限定するという御意見でございますけれども、実は平成25年の12月ですけれども、交通政策基本法という法律が成立しました。もともと旧民主党のときからずっと出されて、廃案、廃案で出てきた法律なんですけれども、25年によやくこの法律が通ったという事実がございます。この法律の中で一つ論点になったのが、いわゆる移動権というものでございます。人間の移動する権利というものを認めるかどうかというところの理念的なものの議論がございましたけれども、この法律で初めて人が移動する権利というものが整備をされたというところでございます。その移動権というものでいうと、やはり人は自由に拘束されずに動けるという、要は移動するという部分で、それは個人の権利であるというふうな考えのもとで、この法律が整備されております。その法的な趣旨という部分からの見解で言うと、やはり今回のタクシードライバーの法趣旨にのっとれば、やはり皆さん行きたいところに行く。そのときに、そのチケットを使うというのが理想的だというふうに考えております。

○議長（村上 正広君）8番、近藤仁志議員。

○議員（8番 近藤 仁志君）移動権という、初めて、自分は今まで聞いたことがなかったわけなんですけれども、この移動権というのは、それが時代劇でいう通行手形にこのチケットがなるわけじゃないわけではなくて、チケットがないと移動できないという制約になっというわけじゃないわけではなくて、移動は十分できるわけなんです。ただ、やはりできたならこの日南町から発行したこのタクシードライバー券で、なるべくなら町内で買い物をしてほしいと、そういう気持ちはやはりあってもしかるべきじゃないでしょうか。

何度も言うように、自分はなかなか納得できませんけれども、それは当然あってもしかるべきで、それでこそ初めて町内の商工業者であったり、いろんな業界も一緒になって潤っていくということ。それで、緊急性がある場合は病院などの利用はやむを得ないとしても、やはり買い物というものは、そんなにせっぱ詰って買わにやいけんというものでもないし、ある意味、日にちをきょうでもないといけんというものでも、早々あるものではないと思います。緊急性を要することもないと思う。そうした場合は、やはり町内の事業者をなるべく使ってほしいという考え方は、当然あってもしかるべきと思うわけなんですけれども、どうでしょう。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）移動権というのは法律ですので、当然条例とか、それより上のものになるわけですので、上位法になりますので、それを制限をして、それに背くものはできないというふうに思います。ただ、裏のほうに例えば買い物はできるだけ町内で済ませようとか、時間が許す場合には相談に乗って、余裕を持った時間の予約をしましょうとか、そういうふうなことは書けるんじゃないかなというふうに思っております。仮にチケットの裏に、そういうふうなことが書けるんじゃないかなと思っております。

○議長（村上 正広君）8番、近藤仁志議員。

○議員（8番 近藤 仁志君）利用要件とか利用要綱など今整備が進んでるということなんですけれども、一昨日ぐらいから高齢者の認知症の審査が厳しくなってきたということで、認知症が疑われるということと免許証の返納という、ちょっと若干認知症に対する審査が厳しくなってきたということ、遠隔地の方ほど、そういった車の運転免許というのをやはり一番必要とされる。代替交通がどうしても少ないわけでありまして、もしこれがやむなく返納せざるを得ないというふうな高齢者の方が十分ふえてくることが予測されるわけです。

そういった意味で、高齢者返納環境の整備というものをやはり行政のほうで、これも十分やっていかないとはいけません。そういった意味で、ひょっとしたら遠隔地の方が免許証がなくなるとか、または自主返納されるとき、1年間を通してこれが2万円でも十分やっていけるかということ。だから、やはり甘受できる不自由というもの、それはぎりぎりの線なのかもしれませんが、そういった観点から、ちょっと最初のほうの質問の続きになりますけれども、やはりそこには、そういった今まで車を運転して、それがやむなく返さなきゃいけない、また恐らく自分はだめだろうから返す。足が痛くなったから返す。そういった方には、やはり利用機会をふやすためにも、その地域間格差というのは必要と考えます。これをタクシーのほうの最後の質問とさせていただきます。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）御承知だと思いますけれども、28年度からこの制度は既に続けております。バス券かタクシー券か、どちらか御希望のほうで対応しております。ただ、これにつきましても、距離的な差はつけおりません。これについて、距離的な差の中で御不満

があるという話も実は聞いておりません。実際には今7人ぐらいが対象になっておられるんじゃないかというふうにはちょっと認識はしておりますけども。たしか10人以下だったというふうには思っておりますけども、実際には距離的なものの御不便というふうな話は聞いておりません。

○議長（村上 正広君）8番、近藤仁志議員。

○議員（8番 近藤 仁志君）この自主返納制度というのは、1回きりの1万円というところで、このタクシー助成とは十分制度が違っていると自分は認識しとるわけですし、これから先、返納したら恒久的に、タクシー助成が定着したら、来年を再来年もこのタクシー助成によって自分の足が確保されるという、それは安心感を提供できる。だから、それと免許証の自主返納を推進するという考え方、これは1回きりですので、これはやはり制度的には自分は違っていると考えております。だけ、それがこれから先どういう形になって、高齢者の方が、遠隔地の方が本当に安心して返納できるという環境をやはりこれから考えていく上で、より一層このタクシー助成というのを中を工夫しながら推し進めていただきたいと思いますが、どうでしょう。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）認知症の方とか免許返納の方については別に年齢はございませんので、65歳の方でもたしか該当になれば、返納されれば出してあります。ですから、これについて恒久的なことを言われると、ちょっと私もずっといつまでもおるかどうかわかりませんので、言えませんが、ぜひとも次の方がもし出られても、そういう制度については引き継いでいかないと、日南町のやはり交通体系というものについては守れないというふうに思っていますので、そういう場合があれば、ぜひとも引き継いでいきたいというふうに思っております。

○議長（村上 正広君）8番、近藤仁志議員。

○議員（8番 近藤 仁志君）次に、2番目の質問に対して関連質問をさせていただきます。

このタクシー助成ともある意味関連するわけですが、ついでに住みかとしての日南町ということであっておられます。当然自分もそう思っております。やむなく町外のほうに出られた方も、やはり田舎にもう一度帰りたいたいと言いながら、志がかなわずに都会のほうで亡くなられた方をたくさん知っておるわけでありまして、そういった意味において、今、農地を守る農業法人、それから営農組織、これは任意団体の営農組織であったり、それから認定農業者、そういった方が大変孤軍奮闘しながらやっておられます。当然高齢によつて農地がたくさん出てくるようになりまして、そういった意味で、ちょっと昨年からの動きとして、農業法人が昨年、この1年間で設立した数と、それから今設立しようかという動きのある組織、それからある程度形になりかけたなという営農組織、お互いがそういった組織的な取り組みが行われている団体は何団体ぐらいふえましたでしょうか。

○議長（村上 正広君）青葉農林課長。

○農林課長（青葉 誠也君）農業法人として登記をされてという団体は、28年度は1件というぐあいには承知をしております。それから、集落営農とか地域の農地を基盤とした任意団体の動きとしては、現在、法人化等を計画しとられるというぐあいには伺っているのは1件か2件という状況でございます。以上です。

○議長（村上 正広君）8番、近藤仁志議員。

○議員（8番 近藤 仁志君）今までこの農地維持に大いに、やはり農地が流動化するこによって人格を持った組織でないと、なかなか受委託というか、農地の受け手になることができないわけですし、そういった形でやっていかないと、個人の経営ではある程度限界もあると思いますし、大いにこの農業法人であったり集落の組織であったり、そういったのを充実させていく取り組みをお願いしたいと思いますけど。

それから、あわせて12月のあれにも言いまして、先ほど町長からも答弁の中でありましたけど、やはりこの笠木営農組合という、自分が所属しております組織がいろいろ工夫しながら一般社団法人という形をとってきて、今勉強しとるわけですし、これが十分先例が大変少ない事例でありまして、自分たちで努力しながら、それなりの勉強をしながら、積んでは崩し、積んでは崩し、ビルド・アンド・ビルド何とかなというふうな言葉じゃないですけど……（「スクラップ・アンド・ビルド」と呼ぶ者あり）スクラップ・アンド・ビルドですか、なれない言葉を使って、ちょっと口がもつれましたが。そういう形でやってきて、やはりこういった体制を町内に広げていかないと、農業法人の要件と一般社団法人の要件というのは全然違うわけでありまして、一般社団法人の場合は非農家の方も参加できませんし、また町外の方も参加できます。それから、町外企業としても参加できます。そうした

場合、その部落の中で可能性というのが莫大に広がってくるわけなんです。そして、当然農地だけでなく、福祉であったり防災であったり、そういった面でも十分対応できるわけなんです。だから、まめな会であったり、いきいき百歳体操であったり、それがどういう状態、その件数が、いきいき百歳体操はふえてると、大変増加中であるということですけど、まめな会も、なかなかふえるわけじゃないですけど、いつときは地域の方に投げ出すという方針も示されたわけですけど、やはりそれではやっていけないということで、例年どおりやっておられるわけですけど。やはりそういったこともこの一般社団法人の中で取り組んでいくということ、取り組めるということ。それと、あわせて農業法人、収益を目的とした組織であったり団体がより収益を上げることに集中できるというメリットがあるわけなんですけど、こういった取り組みについてどのようにお考えでしょうか。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）今、近藤議員が言われましたように、一般社団法人というのは、さまざまなメリットがあるというふうに思っております。今、農業生産法人や担い手農家さん等も頑張っておられますけども、どちらかというところ、そちらのほうは農地面であったり、それから先ほどあった在宅介護、まめな会であるとか、そういうふうな在宅介護も、なかなか高齢化の中でできにくい状況になっております。また、法人等の参入等も考えていくと、一般社団法人というのも一つありなのかなというふうに思っております。できましたら新年度あたり、一般社団法人あたりの説明会みたいなことをやって、それに取り組めるところは向かっていただくというふうなことも一つの方策なのかなというふうに思っております。以上です。

○議長（村上 正広君）8番、近藤仁志議員。

○議員（8番 近藤 仁志君）こういった取り組みがなぜ自分たちが推奨するかということと、要するに地域の中の特に弱者がいかんにか安心して、ついこの住みかとしてこの笠木というものを選んでいただけるかということ。それをみんなで話し合っただけ、そのためには、高齢になって来年の耕作が不安になったときに誰に頼もうかといったときに、こういった形で一般社団法人があったら、そこに頼む。今度は受け手としても、やはり耕作不利地のところは収益性が低いわけですので、受けたくないわけなんです。全体は受けないけど、一部の農地は受けると。ほんなら、残ったところは荒れてしまうと。荒れてしまったら、やはり本来の里山としての機能、景観が落ちるといふこと。そこは一般社団法人でカバーして耕作して、草刈りをして維持をしていこうと。そういう考え方でやってるわけですし、それによって、年寄りの方がいきいき百歳体操に出るときに、若干公共交通もないわけですし、誰だもしてくれるもんがおらんということを出れないということをやフォローする。そういった事業も今後やりたいと思うし、だけ、そういった意味において、もっと積極的な姿勢で、地域の方が望まれるなら推し進めるというような発想でなしに、こういうことが、こういう方法がより日南町のためには有効ではないかという信念のもとで推し進めることはできないわけでしょうか。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）ちょっと私もまだ不勉強で、先般も近藤議員さんは現場に行かれて見られてましたし、農林課のほうの職員も一緒について見てというふうに思っておりますので、その辺も踏まえて、より前向きに進められると方法があれば考えてみたいというふうに思っております。ぜひともまたいろいろな御指導をいただきたいと思っております。

○議長（村上 正広君）8番、近藤仁志議員。

○議員（8番 近藤 仁志君）前向きな答弁をいただいておりますけど、実際12月にこの場で質問させていただきました。その後、自分たちも勉強して。だけ、先進地に行ったときに、やはりそこには福祉グループという、普通の農業グループ、作業グループ、加工グループ、福祉グループというぐあいに、一つの一般社団法人の中に、そういったグループ分けしております。農地に関しては核となる株式会社がありまして、これは農業法人としてやっておりまして、だけ、自分たちも行ってびっくりしたのは、自分たちの理念と同じ、マッチしとるわけです。

ただ、よそのこういった組織が一般社団化できたところは、指導がJAであったり行政が、官でやられたわけですし、やはりこういった笠木のように自分たちがもがいて、もがいてやってきた事例は多分全国で初ではないかと思っただけです。この一般社団法人、地域を一般社団化したのが自分たちのところで全国で4例目か5例目だったんですけど、それはずっとJAとか行政が率先して中に入って、こういうものを立ち上げられてきて、

町民に提案してやってこられたという事例なんです。だけ、そういった意味で、本町も、そういった気持ちで取り組むということをお願いしたいが、どうでしょうか。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）ある面では、まちづくり協議会でもその辺まで進んでるようなところもありますので、そこに対して具体的な設立の仕方とか要綱とか、そういうふうなものをお示しできれば、ある程度向かっていただけたところがあるのかなというふうに今思いましたので、そういうふうなところもちょっと研究しながら進めてみたいと思います。

○議長（村上 正広君）8番、近藤仁志議員。

○議員（8番 近藤 仁志君）ぜひ進めていただきたいと思います。こういう取り組みをすることによって、先ほど、先般、鳥大との連携の中で片野先生がウイークエンド・ファミングという名前で紹介されておりましたが、町内出身の息子さんだったり親族の方が週末には実家に帰って、自分の土地や家屋を管理、維持していく家庭は壊れない。当然そういう方は、やはり田舎に愛着心があると思うわけです。ただ、それが自分の土地と家屋だけの管理に終わっておるわけではなく、こういった組織の取り組みをすることによって、集落に対して愛着ができたり、それからまた集落に対しては、自分の強みであるいろんな技術であったり知識であったりを提供して、お互いに高めあったり、また地域の労働力として期待したり、いろんな意味のつながりがあるって、チャレンジをやっていく上において大いなる可能性を秘めている取り組みだと自分は自負するわけなんです。

それからまた、こういったことによって町外の協力企業に参加してもらうことによって、こっちの生産物をその企業によって加工してもらうとか、販売してもらうとか、いろんな取り組みのバリエーションがふえてくるように自分は考えてるわけです。ぜひこれらはどんどん進めていきたいと思っております。

それともう一つ、12月にも言いましたけど、この特定法人というもう一つ上のあれがございまして、前回も言いましたけど。この一般社団法人が特定法人になることによって、一般社団法人でかかる税金が特定法人になることによって、かからないという要件があるわけなんです。大変有利なこと。要するに今度は事業の展開が、いろんな事業ができるわけなんです。税金のかからない、一般社団法人で税金がかかる事業も特定法人になることによって税金が節税できるわけなんです。それは税金を払わないことが自慢じゃないのかもしれないんですけど、でも、節税ですのでね。これは払わなくてもいいという制度ですので、ぜひそれに乗りたいわけです。そのためには、いろんな要件があるわけなんですけど、一番自分たちが期待してるのが、町が要するに、前回言いましたけど、議決権の過半を持ってもらえたら特定法人に無条件でなれますよということなんですけど、その辺の考えはどうでしょう。前回から3カ月たっております。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）まだ3カ月で、勉強不足なんですけども、節税というのはいいい考えだと思いますし、特定法人というふうなものもあるというふうに思っておりますけども、やはり段階を踏んでいかなないと、今言われる一般社団法人、そして次には特定法人を目指すというふうな段階を踏まないと、なかなか一足飛びに特定法人でやって、結果的には何とか学園ではないですけども、そういうことにはならないようにしないといけないと思いますので、一足飛びにはなかなか難しいんじゃないかなというふうに思っておりますので、ぜひとも頑張りたいと思います。

○議長（村上 正広君）近藤仁志議員。

○議員（8番 近藤 仁志君）何とか学園は雑談だとは思って、正式な答弁とは受け取りませんが、その段階というのが、だから一律にするでなしに、今、自分たちはここまで来とるもんです。要するにはっきり言って、ちょっと一歩先を先んじてるという自負を持っております。そこにこのモデルとしてでもいいです。トップでなくてもいいですので、モデル地区としてこの特定法人を自分たちの地区でやって、それがよかったら広げるという、そういった検証のやり方も十分あるんじゃないかと思うわけです。

みんなと一緒に成長するという方法も当然それは結構ですけど、もう先んじてできた組織がある場合、それをなるべく有効利用してほしいという気持ちがあるわけです。それをもし町のほうでいいと感じたら広げる。もし悪いと思ったら撤退されたらいいわけなんですよ。これは出資金だい何だい要りませんので、議決権だけで結構です。加入金と議決権だけでいいわけです。加入金は微々たるもんです。はっきり言って、だけ、これは簡単に入れますし、やめることも十分できますので、こういった形で、今できとる組織、地域にもっともっと密着して、そのあり方を住民と一緒に考えていくという姿勢を持ってほ

しいわけですけど、どうでしょう。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）私は、別に護送船団方式で誰もが一緒に一、二の三ということは思っておりません。今言われますように、やれるとこだけどんどんやっていって、それが見本になって次のところを目指していくと。よければ自分ところも目指そうというふうなことがあっていいというふうに思っておりますので、そのような機会なり、また御提案いただきましたら、十分検討していきたいというふうに思っております。

○議長（村上 正広君）8番、近藤仁志議員。

○議員（8番 近藤 仁志君）前向きな答弁をいただきまして、大変ありがとうございます。これが農村、農業だけでなしに、本当に地域を守っていくのに自分たちもまだ手探りで十分なものとは言えませんが、でも、やはり先例などを見ますと、やはり同じ考えで、同じ理念で、小異を捨てて、みんなで利益を共有しようという発想のもとなんです。それは年寄りの方、それは農業だけでなしに、心の利益も含めて、お金の利益だけでなしに、心の利益も含めて、やはりそれをみんなで共有しようという組織をつくっていかうという理念のもとでやっとなるわけですし、そういう意味からいって、ぜひ入っていただきたいと思いますし、もしいいと感じたら、やはりこういう取り組みもあるよということも広げていってほしいと思います。また、やがて自分たちの代表のほうからも要望書を出してみたいということをおっしゃっていただきました。その節には、ぜひ検討したいと思っておりますが、再度お願いします。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）了解いたしました。

○議長（村上 正広君）8番、近藤仁志議員。

○議員（8番 近藤 仁志君）それともう一つ、同じことで、たびたび申しわけないですが、このたびふるさと住民票とか、ふるさとPR大使とか、各自治会とか、いろんなところで取り組んでおられますけど、こういうことをすることによって、実際これ形だけのものですけど、ふるさと共同体とか、帰って、田舎は高齢化になって地域が回りまわすので、こういった取り組みでどんどん考慮することによって地域型元気になるということも申し添えて、自分の質問を終わります。

○議長（村上 正広君）答弁はよろしいですか。

○議員（8番 近藤 仁志君）はい。

○議長（村上 正広君）関連質問がありますか。

6番、大西保議員。

○議員（6番 大西 保君）先ほどの近藤議員の関連ですが、タクシー助成ということでお話がありました。私は、そのタクシー助成、公共交通の見直しということで、2年前から山中専門監にお越しいただいて2年間、今回で帰られるわけですけども、せっかくこの2年間つくられてきた、それから地方創生の会議も、評価委員会とかやられておられます。やはりこれは大変横串の淘汰、関係部署を集めてやられました。そういった全体を俯瞰しながらやっていく、4月の人事の内容は私とは言えませんが、言えないというよりも、そういう質問はできませんけども、ただ、やはりこれを生かしてもらいたい。平成32年度まで5年間の間、その辺のできればそういったところを俯瞰される責任者の所屬と役職程度は教えていただけましたら、というのは、やはりこういう方で、こういう、名前は要りません。そういうことで結構でございますので、よろしく願いいたします。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）本人からは言いづらいというふうに思いますので。先般、運輸局に行ってお礼を申し上げてきました。本当に真摯に5年間、夜も、本当に朝まで何回も徹夜で計画もつくってくれましたし、非常に惜しいので、次の町長にぜひどうかというふうな話もさせていただきましたら、本人は嫌だというふうに言いましたので、そしたら、次、またもうちょっと、あと2年もというふうな話もしましたが、家族がとても許さないという話もありまして、これは半分冗談でありますけども。本人としては、中国地方、特に山陰関係の交通関係には何らかの形で携わるといいうふうに思っておりますし、多分リップサービスかもしれませんが、月に2回ぐらいは日南町に来たいというふうに思っております。（「町の体制は」と呼ぶ者あり）

町の体制ですか。ごめんなさい。完全にそういうふうに思っておりましたので、申しわけございません。専門監にかかわる体制はつくって、やはりしっかり、専門監の教えを受けた人間もおりますので、そういう人間もしっかり残して、全く断絶がないようにやりたい

日南町第2回定例29年3月14日

と思っております。

○議長（村上 正広君）以上で近藤仁志議員の一般質問を終わります。

○議長（村上 正広君）ここで暫時休憩をいたしたいと思います。再開は10時20分からといたします。

午前10時05分休憩

午前10時20分再開

○議長（村上 正広君）休憩前に引き続き会議を再開いたします。

引き続き一般質問を行います。

10番、久代安敏議員。タブレット2ページになります。

○議員（10番 久代 安敏君）私は日本共産党の議員として、当面する諸課題について執行部の姿勢を問います。

去る3月11日は、東日本大震災から6年が経過いたしました。とりわけ福島原発の事故による避難者が8万人にも及んでいる。また、多くの方々が仮設住宅あるいは全国で避難生活を余儀なくされています。鳥取県中部地震を経験、あるいはその前には鳥取西部地震を体験した私たち日南町民としても、心からお見舞い、お悔やみを改めて申し上げたいと考えます。一日も早い復興を願わずにはいられません。

さて、今、日本全国で市町村議会あるいは都道府県議会、そして通常国会が開かれて、来年度予算などが審議されていますが、今、国会では、大阪の豊中市の国有地の払い下げの大疑獄事件とも言われる事件が発生して、あの学校法人森友学園が国有地を不当に払い下げを受けたということが今、大問題になっています。あるまじきことではないでしょうか。学校法人という本当に子供たちの教育を預かる法人があのような事態になっている。私たちは、大人の責任、大人の教育の責任、大人の仕方、これがまるで子供たちに映っている、本当に嘆かわしい事件だと言わざるを得ないと思います。

今、下では住民課の皆さんが所得税の確定申告の事務を、あした最終日ですけれども、行っておられますが、本当に納税者、特に国有地を、国民の財産を、私たちが一生懸命働いて納める税金を扱う、そういう財務省あるいは国税庁、国税庁では直接ないわけですが、財務省の理財局というところが国民に対する背信行為を行っていると言わざるを得ない、そういう状況です。一日も早い真相解明を私たち納税者の一人として求めたいというふうに思います。

また、先日、南スーダンの自衛隊によるPKOの部隊の撤退が総理から表明されました。私たちは、あの南スーダンの状況は、これも国会で審議されていますけれども、本当に国民に真実が伝えられない。この安保法制の中で何もかも隠そうとする、そういう政府に対して心から憤りを感じています。

さて、私は、今期定例会の一般質問で4本の質問をいたしたいと考えてます。

まず、日南福祉会の介護職員の確保及び福祉会のこれからの経営についてです。

日南町が100%出資する社会福祉法人日南福祉会は、常態化している介護職員の不足により、介護施設の閉鎖あるいは縮小が続いています。抜本的な対策が急務であると考えています。これは、その都度事あるごとに執行部にも申し上げておりますけれども、改めてどのように対処をされたいか、喫緊の課題と考えてます。その方策について示していただきたいと思います。

次に、日南病院の経営についてです。

この点についても、さきの本会議での補正予算審議あるいは当初予算審議の中で日南病院の経営問題についての、あるいは赤字の補填の仕方、一般財源からの繰り出しの仕方あるいは経常利益として積み立てておられる約16億円の積立金の残高の処理をどうされるのか。私は、やはり日南病院が全適になって、公営企業法を全部適用にかわってきた経過の中から、利益剰余金を公会計上そこを充当していくという決算の仕方が当然であるというふうに思います。

もとよりこの日南病院が入院、外来ともに患者数が漸減しているというこの事実を私たちは冷厳に受けとめなければならないというふうに思います。いろいろその理由については、審査の中でも事業管理者及び事務部長が申されましたけれども、本当に病院が地域の自治体病院として将来ともに安心して診てもらえる、そういう病院として存続していくためにも、今こそ抜本的な対策が必要ではないでしょうか。

隣の日野病院は、非常に深刻な経営の中をしっかりと立ち直って、人口は日南町より少ない。江府町も一緒に事務組合をやっておられますけれども、やはり今黒字になって健全な経

日南町第2回定例29年3月14日

営をやっておられます。全国には多くの自治体病院があって、4割近くの自治体病院が実際には赤字経営を余儀なくされているという実態もありますが、やはり本当に抜本的な対策を立てていただきたいと思いますというふうに思います。

28年度も赤字の見込みであって、特別交付税の算定基準の見直しもありました。しかし、私は、政府がそういう仕方では特別交付税を稼働率に応じて配分するという算定の見直しを行ったことかもしれませんが、やはり根本的には病床数に見合った稼働率にしていくということが基本ではないかと考えています。この点について執行部の答弁を求めます。

次に、農林業研修制度の充実により、本当に後継者をしっかり育成していくということについて問います。

平成21年から始まった農林業研修制度は、ことし9年目を迎えます。これまで50人余りの人たちが研修生として研修をしてこられました。一部には定住ができなくて町外に再び出ていかれた方もありますが、やはり私は、この研修制度というのは、既に町内に在住して、日南町の農林業を継いでいこうという人たちも含めて本当に大事な制度だと、次の世代の産業を担う人たちを育てていく制度だというふうに思っています。1ターンをやUターンを割と中心に、Uターンは日南町出身者ですからいいですけども、1ターンを中心に見てきたような嫌いもあるけども、全体としてやっぱり後継者を育てていく制度として、より充実していく必要があるのではないかとこのように考えています。

ことしの施政方針で、町長も指導要領を改善するというふうな施政方針説明でも示されておりました。具体的にどのように改められるのかという点。それから、農林業は、安心して安全で安定的な生産をしていくことが基本であります。持続可能な経営で、次の世代にしっかりと引き継ぐことが重要であります。そのためには、住民全体で育てていくという視点での多様な多面的な教育あるいは実践が必要ではないかと考えます。また、研修生を受け入れる個人や団体、これまでもいろんな方たちが、あるいは団体か受け入れて実習の支援をしてこられました。この方たちにやっぱりしっかりとした支援が必要じゃないかと。やっぱり教育には授業料がかかります。そのことを改めて申し上げたいというふうに考えますが、どうでしょうか。

最後に、学校給食の無償化ということで、これもちょうど昨年の3月定例会で私は一般質問として取り上げました。というのも、昨年度から保育料の無償化を実施されるということにつけて、子供の教育の支援、子育て支援、その一環として学校給食費も、いきなり無償化でなくても、3分の1とか2分の1、そういうところから始められている自治体も全国にたくさんあります。この点について日南町でも検討されてはどうかというふうに思います。

やはり学校給食というのは、小・中学校約230名ですか、新年度の児童生徒数があるわけですけども、食育という面あるいは地産地消、全面的に学校給食の現場で子供を育てていく、そういう観点からも、ぜひとも一歩でも二歩でも前進するような、そういう施策をつくってほしいという意味で、この提案をいたします。

以上4点の質問を終わります。

○議長（村上 正広君）執行部の答弁を求めます。

増原町長。

○町長（増原 聡君）久代安敏議員の御質問にお答えいたします。

日南福祉会の介護職員の確保についてであります。社会福祉法人日南福祉会においては、日南町における介護保険サービスの多くを提供いただいている重要な事業所であり、全国的にも課題となっております。介護職員の確保が中山間地ではより困難な状況であります。昨日の参議院のほうでも、公明党の議員さんだっただと思いますけども、非常に困難だと。いわゆる介護報酬を上げない限りは、なかなかこの辺のところは幾ら職員の給料を上げたとしても経営体としての厳しさがあるので、介護報酬を上げるべきではないかというふうな御質問も出ておりました。これはやはり全国的な問題だろうというふうに思っております。

振り返りまして、日南福祉会では、平成28年度の退職者は有期雇用者を含め14人の見込みであり、総職員数は年度末で175人となるようであります。平成26年度が195人、平成27年度が189人と減少しており、平成29年度の採用予定者は、短時間勤務者を含め5名と聞いておりますので、いずれにしても職員不足が継続するというふうに思っております。

今現在、日南福祉会の職員の40%は町外の出身者であります。リーダー的な年齢で頑張っていた職員が親族が高齢になった理由等で、出身地に帰られるといった事例が多いというふうに聞いております。そこで、人材確保のため求人継続、就職フェア等

への積極的参加、給与等の見直し、研修の充実、事業所内保育所の開設等に取り組んでおります。給与面等待遇面におきましては、決して周辺の施設よりも悪くないと。むしろいいというふうに認識をしております。

町では、介護福祉人材育成奨学金制度を広くPRし、職員確保の支援を進めてきております。具体的には、高等学校、介護福祉士養成学校等への訪問はもとより、中四国管内の学校にも範囲を拡大して制度の案内を輸送するなど、引き続き周知に努めてまいりたいと考えております。

また、施設使用料相当額について、今年度から協定内容の長期的な見直しをして安定的な協力をするとともに、日南町福祉会が目指している人材確保対策を支援してまいりたいと考えております。具体的には、いわゆる今、奨学金をいただいとるわけですけども、これについて平準化して長期化して低額化していくというふうなことを考えておりますが、いずれにしても、この原因というのがやはり人材不足ということがあるわけです。片方で幾ら減免しようとして、人材不足が続くならば、今の日南町の施設について施設介護のニーズというのはやはりあるというふうに認識をしております。実際にも、また後で述べますけれども、日南病院の療養型は今満床というふうな状況でありますので、決してニーズがないということではないと。いわゆる介護の職員が少ないというふうなことがあるというふうに思っております。

日野高校でも、今回29年度からカリキュラムの見直しがあつて、介護のコースというのでも設けました。しかし、希望者が非常に少ないということで、あゆみの郷と日翔会ぐらいいしか研修はできないと。日南福祉会には来ませんかという話をしたんですけども、なかなかそれだけの人材がないというふうなことで、実際には介護職を希望するという人たちが少なくなつてるといふ実態があります。介護という仕事のイメージアップにも努める必要があると感じております。

平成28年度には、鳥取大学の地域支援事業を活用して、日南中学校生徒とともに認知症について学ぶ機会を持つていただきましたが、若いときから学ぶ機会や触れ合う機会を持つことは貴重な体験であると思っております。職場体験、これは日南中学校でありますけれども、近年は介護施設を訪れる生徒が減少しているというふうに聞いております。より積極的に体験をしていただきたいと願っております。

介護の仕事は、かつては3K、きつい、汚い、給料が安いというふうに誤解をされておりましたが、しかし、介護職員の処遇改善に国を挙げて取り組んでおります。新たな3Kの認識を町民皆で広げていきたいというふうに思っております。新たな3Kとは、介護の仕事は利用者の「希望」のKをかなえる仕事であり、それによって利用者は「感動」のKであり、「感謝される」のKのお仕事であるという認識であります。

日南福祉会におきましては、事業所の統廃合を工夫しながら住民サービスに支障を来さないように努力をしております。町としても、先ほど申しましたように、人材育成と兼ねての負担の軽減というふうなことも一緒になって考えてまいりたいというふうに思っております。

2番目に、日南病院の経営についての対策であります。

御指摘のように、日南病院の利用患者数は年々漸減しております。これは、やはり久代議員も言外におっしゃいましたけれども、いわゆる人口というものを考えたときに、8,000人の人口の今の日南病院の形態から5,000人を割った形態というふうなことを考えると、ある程度のスケールダウンというのはやむを得ないというふうに思っております。しかし、やはり地域医療の火を決して消してはならないというふうに思っております。

外来患者数については、外来診療日1日当たりで言いますと、平成9年度の293人をピークに、前年度は半数以下の114人となっており、本年度1月末では116人となっております。入院患者数については、平成12年に89から99床に増床して以来、平成14年の1日当たり89人をピークとして、昨年度67人までに減少し、本年度1月末では61人となっております。また、本年度の一般病床の入院患者数の減少が大きくなっております。その結果、平成28年度補正予算で約4,600万円の赤字見込みの予算を計上させていただいたところであります。

最近の情報によりますと、療養型につきましては、先ほど申しましたように、今満床というふうなことでありますし、実際入院患者数もベッド数も少し回復してきたというふうに聞いておりますが、いずれにしても、やはりどこかでのスケールダウンというのは図らないといけないというふうに思っております。

日南病院は、長く多くの町民の皆様にご利用いただいて安定経営を続けてくることがで

日南町第2回定例29年3月14日

きました。医療環境の変化や患者数の減少、あわせて平成28年度からの地方交付税制の見直しも重なり、経営状況の悪化を招いており、今後も当分の間は厳しい状況が続くものと想定しております。今回の交付税の減というものは、いわゆる2割は自治体で持ちなさいと。端的な話をしますと、2割持てないような自治体病院であれば廃止しなさいというふうなことが、極論とすれば、そういうふうなことだろうというふうに思っております。地方紙におきまして、全国の中でそういうふうな方向もあっております。

このような状況の中におきまして、引き続き病院としての医療サービスを安定的に提供するために、第1に患者様の病気や生活の実態に即した形での対応など、医療の提供を基本に経営努力を積み上げていきたいと考えておりますので、従来と同様に町民の皆様の御理解と御支援をお願いするものでございます。

第2には、長年にわたる黒字経営の結果として、バランスシートの中で多額の資金が積み上がっております。この中の大きなものとしては、一般会計出資金を元手とする繰り入れ資金約8億円、決算黒字の累計である未処分利益剰余金約16億円があります。いわば現在眠っているこうした病院資本をまずは有効に利用し、経営改善につなげていくことを今後検討してまいりたいと思っております。

平成24年に地方公営企業の諸制度を見直すための地方公営企業法の一部改正があり、資本の運用に関する自由度が高まっているところであります。資本等の額の変更は、年度途中での実施は好ましくないとされておりますので、新年度中にも協議をしながら、平成30年度施策として成案を町議会に提案していきたいというふうに考えておりますので、よろしく御理解をいただきたいと思っております。

3番目に、農林業研修生の充実により後継者の育成についてであります。指導要領でありますけれども、実際これまで指導要領といいますか、カリキュラムというものをごさしませんでした。普及所等と一緒に年間のカリキュラムをしっかりと出し、この時期にはこういうことをするんだというふうなことをしっかりと提示をして、特に普及所、そして農家、そしてエナジー等も含めて論議をしてまいりたいというふうに思っておりますし、既に9年目を迎えておりますが、農林業の研修生のOB等にも協力をいただいております。

まずは研修の目標、方針、研修体系などをまとめた年間の研修計画を今回新たに策定いたしました。この計画書を年度初めのオリエンテーションで研修生に周知し、研修の目的や流れ、就農までのスケジュールなどを研修生には自覚を持って研修に取り組んでいただきたいと思っております。また、この計画書をエナジーだけではなく、さまざまな関係機関が共有し、共通の認識を持って研修生の指導に当たりたいと思っております。このほか、年間の研修内容をまとめた基本カリキュラムを作成し、このカリキュラムに沿って毎月の研修スケジュール、これは大まかな年のスケジュールですが、月別のスケジュールも作成し、進捗状況や作業状況にあわせた計画性のある内容で取り組んでまいりたいと思っております。

研修の進捗管理については、年に数回関係機関で集まり、進捗確認や今後の方向性について、その都度情報共有をしながら総合的な支援ができる体制を構築していきたいというふうに思っております。現在もやっておりますが、いわゆる次年度に向けた方向というのが主でありますので、それよりも中間の研修状況というものも確認しながら進めてまいりたいというふうに思っております。

また、この指導を住民全体で育てるという視点での必要性ということではありますが、研修生は、それぞれの目的に沿って研修活動に取り組むわけであり、彼らにとっては、短い時間であっても充実した時間を過ごさせたいというふうに考えておりますので、優秀な農家の御指導をお願いをしたいと考えています。その中で、農業の基礎的な技術習得や知識は確かに重要なことではあります。地域で農業を営み、暮らすには、もっと大切なことがあります。

それは万物皆師なりという言葉です。すなわち農家の経験に基づくその地域ならではの知恵や技術、学びとは全てのものから学ぶ、みんなが先生であるという考え方であり、地域の皆さんの直接的な御支援や、陰ながら支えていただくことで、しっかりとした農業者に育っていくと考えております。研修生にも、謙虚な心で地域の皆さんから指導を受けるように指導してまいります。

続いて、指導の報酬をということではありますが、現在の制度の中で協力者謝金という形をとらせていただいております。今回の研修内容の改善によって、一部農家への長期間の受け入れをお願いするケースがふえてくるというふうに思っております。これからお世話

日南町第2回定例29年3月14日

になつてくる皆さんに十分とは言えないかもしれませんが、そのような謝礼を出していくことも考えていきたいというふうに思っております。

以上、久代安敏議員の御質問に対する答弁とさせていただきます。

学校給食費の無償化については日南町で行うことについては教育長から答弁をさせますが、これまでに日南町保育園でアンケートをとらせていただきました。昨年、無償化したことが無償になったうれしいと。だけでも、保育料だけは払わせてほしいという言葉が数多く見られました。非常に私も、うれしく思いました。そのような保護者からは立派なお子さんや育つというふうに私は認識しております。決して日南町の子育て支援はおくれないというふうに思っております。ただ、やはり保護者の方々も、できる限りの力の中でお子さんを育てていただくという意識を持っていただいているというふうに私は認識をしております。

この後は教育長から答弁させますので、よろしく願いいたします。

○議長（村上 正広君）丸山教育長。

○教育長（丸山 悟君）久代安敏議員の御質問にお答えをいたしたいと思っております。

まずは、学校給食の無償化についてでありますけれども、十分に御承知だと思っておりますけれども、学校給食法においては、学校給食の実施に必要な施設・設備に要する経費、学校給食の運営に要する経費は学校設置者の負担、その他の学校給食に必要な経費については保護者の負担とするということにされています。

日南町におきましても、給食センターの設置・設備の管理、給食の調理・運搬等に要する経費は日南町が負担しております。食材の購入代金を給食費として保護者の皆さんに負担していただいております。また、経済的に困りの家庭に対しましては、給食費の助成を行っているのが現状であります。食を通して教育するという学校給食の教育目標を達成すること、また保護者の経済的な負担軽減により子育て支援を充実すること等、さまざまな観点から議論していく必要があると考えております。

教育委員会委員の会議や学校給食会の保護者の会でありますけれども、の中で協議をしておるところでありますけれども、現時点では食材の購入費、給食費を保護者の皆さんに負担していただくことが適当であるというふうに教育委員会としては考えております。今後、社会情勢を見ながら、また機会あるごとに引き続き議論をしていきたいと思っております。御理解をいただきたいと思っております。

以上、久代安敏議員の質問に対する答弁とさせていただきます。よろしく願いいたします。

○議長（村上 正広君）再質問がありますか。

10番、久代安敏議員。

○議員（10番 久代 安敏君）まず最初に、日南福祉会のことについて再質問をいたします。

まず冒頭に、町長は、昨年の日南福祉会の決算で具体的な金額、500万円ぐらいの何かそういう、要するに2,700万円余りの福祉会の施設の負担金ですよね、利用料負担金、指定管理の。それを未払い金として福祉会が計上したがために、実際には介護事業部門は赤字だったんです、決算書がかつて確認しました。それによって社会福祉法人の法人税を、はつきり申し上げられませんが、数百万単位のお金を払ったんだという。それならば、ぎりぎりプラマイ・ゼロになる程度の決算をしていただければ、そういう法人税は払わなくて済んだじゃないかという趣旨の発言をされてきました。

これは私も福祉会の事務方の方に確認をしましたけれども、要は収益的事業があるんだと。日南病院の院外薬局の土地は法的に日南病院が同敷地内に持てないということから、日南福祉会が所有してるわけだけど、そういう家賃収入ですよね、借地収入。それと、かすみ荘の居住部分の決算の関係で万やむを得ん、16万ほど、私も帳簿を見ましたけども、法人税を払っておられます。この事実をやっぱり確認しておかないと、いつまでも誤解があると。ことし、28年度もとりあえず福祉会の利用料については延納措置、繰り延べ措置ということで、さっきの補正予算も議決しましたが、これによっても非常に決算の状況が厳しい中ですが、同じことじゃないかなということで、数字についてやっぱり確認をしておきたいというふうに思いますが、どうでしょうか。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）久代議員のおっしゃるとおりでして、ちょっと私の言い方がまずかったんですけれども、昨年、支払い猶予とした金額が2,795万3,885円でありました。いわゆる事業収益の収支差額は626万6,986円でありました。ただ、これは

収益的収支でないものも含んでおります。収益的収支としましては、かすみ荘の居住部分の委託事業部分と土地賃貸事業、先ほど言われた日南薬局に貸しておられるところ、その部分が課税対象となっております。その金額が13万8,300円ということでありますので、その分が余分に払わなくてもよかったというふうな部分でありますので、ことしもその辺は計算しながら、できれば連携をとりながら少しでも節税をしておいております。

それと、先ほど繰り返すになりますが、考え方としては、将来的には、今繰り延べをしておりますけれども、繰り延べではなくて、いわゆる薄く長く、こんなことを言ったら失礼ですけれども、福祉が100年もつというふうな想定ではないわけですが、仮に言うとして、50年なら50年の償還で薄くして、その分負担金を減らしていくというふうな方法がいいのではないかなというふうに思っております。

ただ、一般質問の繰り返しになりますが、一番の元凶というのは、根本的には職員不足ということが生じているわけですので、それとあわせて考えないと、償還は遠慮するけども、職員不足が続くということになると、限りなく償還金が未納なり、限りなく累積赤字が続くということになったときにはやはり困りますので、町も一緒になって、とにかく何が何でも職員不足を補わないといけない状態になっておるという認識を持っております。

○議長(村上 正広君) 10番、久代安敏議員。

○議員(10番 久代 安敏君) それで、この支払い方法ですよね。それはこれからいろいろ相談をされるとは思いますが、とりあえず平成29年度の当初予算で2,795万3,000円というのを上げておられます、施設の利用料として。これは明らかに例えばおおくさ荘の閉鎖問題、これ2年目ですけれども、今2年続いておりますけれども。それから、グループホームあさひの郷がツューユニットあるのにワンユニット9床の利用だと。福祉会に過日1月10日にお聞きしたところによると、あさひの郷も入居者を特老あるいはは町内のほかの施設に移動してもらって、要するに原因は介護士が不足しているからです。なるべく、言えば事業所の数を減らして、ダウンサイジングしながら少ない介護職員の中で対応していきたいというふうなこともおっしゃってました。

とすれば、やっぱり新年度の早い時期に施設の利用料などについて、きっちりとした方針を示される必要があるというふうに思うんです。2年続いたわけですが、結果的には、この利用料の問題も。ですから、これについての、明らかに施設を閉鎖するところについては町が直接管理するというところで、負担を求めないのが当然でもあるし、このあたりについてどのような福祉会との協議を行っていく考えなのか。今明らかにできる点について述べていただきたいというふうに思います。

○議長(村上 正広君) 増原町長。

○町長(増原 聡君) あと1番議員さんでも同じような質問が出ておりますので、この場でお答えさせていただきますけれども。今、久代議員の言われたとおりであります。ただ、私も、負担金を軽減するというふうなことで、別にそれはやぶさかではないです。確かに福祉の組織としての大事なものがあります。しかし、それは、仮に言うとして、一つの例として、その負担金を軽減をしたものを職員給与に充てるならば、職員確保はできないのかと。そして、今先ほど申しますように、施設介護ニーズはあるわけです。

国は在宅介護、在宅介護というふうに言っておりますけれども、じゃあ帰ったときに、おばあさん1人だったり高齢者だけの世帯もたくさんあるわけです。そういうときに在宅介護という言葉が安易に使っていいのか。それから地域包括ケアという言葉も、確かにこれは私の私論でありますけれども、国はそういうふうには言っておりますけれども、じゃあ本当にいつまでも日南町の中で地域包括ケアができるだけの地域の余力があるのかというふうな話をしたときには、やはり施設介護というのも大きなものだというふうに思っております。

そういう中で、仮に減免をしたりするのであれば、その部分を例えば職員さんの給与に上乗せをしていって職員確保が図られないのかと。そういうふうな選択も含めて考えていかないと、2つ分けて考えると非常に危険だというふうに思っておりますので、方向としては、そのようなことを今、福祉会とも考えておるところであります。

○議長(村上 正広君) 10番、久代安敏議員。

○議員(10番 久代 安敏君) 2つ大きな原因があると思うんです。まず1つは、国の介護保険制度が私からいうと改悪、改悪されてきて、例えば昨年度ですね、2年目でしたから。要支援1・2の人が総合支援事業に移行して、介護保険から外された。それによって介護報酬が、実際に福祉会がやっておられる総合支援事業もやっぱり報酬そのものが下がるわけで、幾ら要支援1・2の人を1人の人が一生懸命介護しても報酬が下がるという、

これは根本的な国の制度の変更があつて、しかも介護報酬そのものが、例えば事務職員なんかには引き上げの対象にならないとか、いろいろな矛盾が出てきている点が1点。それと、これも国の全国的な介護職員の不足で、やっぱり小さな社会福祉法人が経営しるところがこの間潰れてきている。そういう状況があるんでね。やっぱりまず国がきつちり本当に介護現場がうまく回るような制度にしていく。これこそまさに1億、1億という言葉は私、好きではないですけども、本当に国民みんなが活躍できる場をつくっていく一つの大きな手法であるにもかかわらず、現実にはこういう介護とか医療、そして都会では保育の現場でやっぱり職員が不足して、事業所が閉鎖を余儀なくされる、あるいは経営困難に陥ると、そういう状況があると思うんです。

あともう1点は、私は、町にできることは本当に地域全体で、町全体で支えていくと。特に生命、身体、本当に皆さん、いわゆる製造業の現場と違って、人対人のマンパワーが全てのような仕事です。そういう現場が本当に、今、町長言われたように、介護ニーズはあると、施設の要求もあると。確かに待機者もずっとおられます。特養にしてもグループホームにしても、やっぱり待機者はいるんですよ。そういう待機者を、介護あって保険なしということにならないように、いつでもやっぱり入所できるような仕組みをつくっていくためには、町も独自に本当に支援していく。

国の制度が悪いから、こういうことにはなっていると。それは確かにあります。けども、町として、本当に高齢者50%の町で何とか支えていこうということは、やっぱり町の財政的な支援もしていかなければいけないと思うんです。その一つがやっぱり利用料の負担をどうするのかということとを具体的に詰めていく。ですから、人件費に補填していてももらえるのかとか、介護施設をやったりきっちり確保していくためにお金を使っているのか。そういう手法をより深めていただきたいというふうに思うんですけども、どうでしょうか。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）国の制度は国の制度として、日南町というの残るわけでありま。そして、日南福祉会、そして次の日南病院も同じでありますけども、医療・福祉というのは大事な住民にとってのたいまつみたいなものだというふうに私は思っております。当然違法なことはできないわけでありま。守っていきたいというふうに思っております。

○議長（村上 正広君）10番、久代安敏議員。

○議員（10番 久代 安敏君）この問題は、あと1点お聞きしておきます。いろいろ福祉会と話をされてるということです。具体的にいつを期限に話をしたいのかということも含めて、施設の閉鎖のこともありますので、示していただきたいと思ひます。予算審査の関係もありますし、しっかり明らかにしていただきたいと思ひます。

○議長（村上 正広君）中村副町長。

○副町長（中村 英明君）福祉会との関係ですけれども、基本的には2月にも一緒にお話を聞かせていただいたという経過もありまして、いわゆる決算見込み等も含めて、そういった流れの中で、福祉会とは綿密な協議等を重ねております。

1点は、町長も申しあげましたけれども、償還についてのあり方の考え方についても、できるだけ早い形の中で結論を導いていきたいというふうに思ひますし、また話ではありませんでしたが、昨年度の未収金の計上のあり方についても、再度再検討の形で、いわゆる計画数値を見直すことによって未収金に未計上にならないかということも含めて福祉会には投げかけて、会計の専門屋さんとの話もしていただくということを前提に話をしておりますので、結果はちょっとどういう形になるかは別として、そういう交渉とか、相談に対しての話を進めております。いずれにしても、償還計画等につきましては、新年度に入って早期の中で結論を導いていきたいというふうに思ひます。

○議長（村上 正広君）10番、久代安敏議員。

○議員（10番 久代 安敏君）一日も早い協議を進めていただきたいということで、次の日南病院のことについて質問をいたします。

日南病院は、例えば病床の稼働率によって交付税の算定基準額が変わったということですね。一般会計からの繰り入れによって決算の赤字を少なくするという手法ですね。これも補正予算や予算審査の中でも意見が出ておりましたけども、例えば新年度も3億2,253万4,000円です。対前年比2,206万9,000円、繰入金が増額されています。ただし、当初予算の入院、外来とも28年度の決算から見れば、一生懸命努力されても非常に計画達成が難しいじゃないかと私は予測してま。はっきり言って。そう

日南町第2回定例29年3月14日

いう中で、仮に29年度の決算で赤字が出れば、その利益剰余金を取り崩して決算を行うと。これが公会計の筋ではないからというふうに思うんですけども、赤字になったから、赤字の部分の幾らかでも一般会計から繰り入れてくださいという決算前の手法はないだろうというふうに私は考えますけども、どうでしょうか。

○議長（村上正広君）中曽病院事業管理者。

○病院事業管理者（中曽森政君）29年度予算を承認いただいた上には、その上で赤字になったときには、議員おっしゃるように、未処分利益剰余金を充当して決算処理をするという手続になろうかと思っております。

○議長（村上正広君）10番、久代安敏議員。

○議員（10番久代安敏君）それでは、確認しておきますけども、28年度に行われた手法は、当初予算の段階から稼働率に応じて算定基準が変わったということ念頭に当初予算も組まれているわけですね。その結果として、一生懸命頑張ったけども赤字だという場合には、今おっしゃったことだということを経営的な確認をしておかないと、やっぱり利益剰余金の意味について、どのような用途がじゃあ正しいのか。長年ずっと黒字で頑張ってきた場合には、そこから補填していくというのが公会計上の原点だと思いますので、基本です。この点、改めてほんなら確認しておきますので、よろしくお願ひします。

○議長（村上正広君）中曽病院事業管理者。

○病院事業管理者（中曽森政君）当初予算を編成する上では、見通しの立たない予算は最大限避けたいということで、今の病院の財務システムの中で、現在の現行の資本額を有効活用して、当面と申しますか、当初予算は基本は現行予算で向かっていくという病院財務の運用の仕方を目指していきたいと思っております。その運用においては、また今後詰めていきたいと思っておりますが、一定のルール化等が必要だろうと思っております。その上で、結果的に当年度赤字になった場合には、それは未処分利益剰余金で決算処理をしていくということになろうかというふうに思っております。

○議長（村上正広君）10番、久代安敏議員。

○議員（10番久代安敏君）その未処分利益剰余金で処理していくという基本を私は確認したというふうに思っておりますので、よろしくお願ひします。

それと、やはり外来より入院の稼働率が非常に特に前年は下がったということで、いろんなことをその理由は言われましたけども、本当に病院として、これだけ言っても5,000人近い人口がある中で、もちろん周辺の自治体からも患者が見えられることもあると思っておりますけども、抜本的な経営戦略を、何かつぼがあれば示していただきたいなと。つまりこのままではやっぱり漸減するんじゃないかというふうに思うんですよ、患者数も。その対策をやったりと申したものを示されないと悪循環になるのではないかなというふうに非常に私、危惧してまして。本当に困ったときには日南病院にという、そこを示していただきたいというふうに思っておりますが、どうでしょうか。

○議長（村上正広君）中曽病院事業管理者。

○病院事業管理者（中曽森政君）冒頭の答弁の中で町長のほうが、人口が8,000人から5,000人前後になる中で、スケールダウンもいずれはやむなしというようなお話をされたと思っております。現時点で具体的な方向性というのは、ちょっとまだお話しできる状況ではないんですが、若干お話が戻りますが、基本的なことを説明させていただきたいと思っております。

議会のほうにも、以前療養病床転換の課題の報告をさせていただきました。現行制度では、29年度末で療養病床は廃止になるという説明です。現在、これが法改正案、介護保険法との改正法案が現在の通常国会に出ておまして、これにかわる施設として介護医療院を設置するという法改正案が国会で審議中でございます。そのこととあわせて、現行の介護療養型医療施設は、さらに6年間経過措置で残るといふ法案でございます。

具体的な今後の抜本的な対応ということですが、まだ現段階で説明を私のほうからできないんですが、いずれにしても、ただ、そういった状況の中で、町長の冒頭の発言の趣旨も踏まえて、いつまでもずるずる現行の介護療養型施設を継続するのはどうかという議論も内部的にはしております。したがって、そうすると、新たな選択肢とすれば、新しい制度であったり、あるいは従来の老健施設であったりということも、いろんなことを検討しております。抜本的な日南町の実情に合った形というのを今後は検討していきたいというふうに思っております。

○議長（村上正広君）10番、久代安敏議員。

○議員（10番久代安敏君）その抜本的な検討もやっぱり早急に、いろいろな検討の組

織もあるわけですから、してほしいと思うし、私は、具体的には例えば総合健診とかありますよね、今、県の保健センターの外郭団体に事業委託していますけども。ああいうの、やっぱり初期の健診が結果として、じゃあ日南病院で外来を受けてくださいということにつながって、せっかくそういう住民健診の制度がありながら、それが十分生かされていないんじゃないか。日南病院で町内、先ほどの日南福祉会なんかでも180人からの職員もおられるし、町内の事業所及び住民の健診をまずは取り組んでいったらどうかというふうに具体的にその対策として提案したいと思うんですけども、どうでしょうか。

○議長（村上 正広君）古井病院事務部長。

○病院事務部長（古井 聡君）住民健診の受託はどうかということをございます、その点は今検討中のございます。健診事業をかなり保健事業団とやっておられますけども、かなりの人手がかかるといふふうに認識しております。そのためには、まずその分の人員の確保、そういったものがございますので、そういったものも含めて検討していくといふふうに考えております。

○議長（村上 正広君）10番、久代安敏議員。

○議員（10番 久代 安敏君）病院の問題は、これからもまた新年度に向けていろいろ皆さんから意見も出てくるとお思いますので、議会としても本当に皆さん、自治体病院として支えられる病院として、しっかり頑張っていっていただきたいという意見を申し上げて、質問を終わります。

次、時間が少なくなってきましたので、この農林業研修制度のことについてです。

具体的に今年度から研修内容も変えていくということですが、全国的に研修制度も受け入れてあります。やっぱり本当に受け入れた研修生は、日南町でしっかり育てるんだということが必要だと思ふんです。地元で生まれ育った人ももちろん研修生の対象ですけども、本当の意味でしっかり育てていく。それは日南町全体で、この町で勉強してよかったなということを行行政が、実際はエナジーにちなんというところに出しているわけだけども、またエナジーにちなんという事業所に対しても、しっかりと責任を持って指導していく。町が直接、実際には町長が理事長ですので、いろいろ指導されてはいると思いますが、もっと本当の意味で育てる対策が必要だと思ふんです。その点について、現場の農業者あるいは林業なら林業者、団体に直接出向いて、座学とあわせて実践をしっかりと学んでいく。そして、そこで学んだ研修先の人たちとも、やっぱりしっかりと林業あるいは農業について、全面的に学んでいくというふうな仕組みをもっと強く進めてほしいというふうに思ふんですけども、どうでしょうか。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）特に農業については、指導力不足というのがあったというふうに思っております。実際問題、役場の職員を考えても、農林課の職員を考えても、実際農業をやっている人間が何人いるのかということ、本当に数が少ない。そういう中で、果たして本当に指導ができるのかというふうな話をしたときには、一般的な経営指導とか、そういう指導はできても、技術的な例えばトマトの誘引の仕方とか施肥の仕方、農薬の散布とか、なかなかできない部分があったというふうに思っております。

4月以降は、いわゆる前にもちょっとちらっと申しましたけども、これまでおられた方が力不足ということはいえませんが、より力のある日南普及所におられたり試験場におられたり、それで、これまでもずっと普及員をされてた方あたりがある程度寄り添いながら、先ほど言われる農家の指導も含めて、農家の御指導もいただきながら、しっかり進めていきたいというふうに思っております。

また、林業について言いますと、今、農の雇用と緑の雇用というのがあるのを御存じだと思ふんですけども、林業については、また別な雇用もございまして、いわゆるこれまで、私も今進めておりますは、エナジーで採用するというよりも、例えば農業生産法人とか、それから林業経営体で面接をして採用していただいて、その方を一緒になった、例えば農業生産法人であれば、高性能機械をじゃあおまえ使わせちゃるわというのは、なかなか怖いといひますか、部分もありますので、そういうときにはエナジーのほうに集まっていただいて、指導員を置いて、県なりの指導を受けながら、一緒になって研修を受けて免許をとっていただくというふうに変えていきたいというふうに思っておりますので、率先してエナジーで、林業がしたい、農業がしたいというふうなイメージ的な部分の方も時々おられますので、そういうふうな方よりも、やはり先ほど久代議員がおっしゃるようにな、ここで何とかしてやるんだと、石にかじりついてでもやるんだというふうな方をぜひとも研修先として御協力をしていきたいというふうに思っております。

○議長（村上 正広君）10番、久代安敏議員。

日南町第2回定例29年3月14日

○議員（10番 久代 安敏君）新年度は農業研修生が2名と林業が1名ということでは今は話を聞いています。特に私、例えば林業は、この間いろいろ補助金もあったりして大きく展望を持たれています。雇用の拡大ということから考えて、例えば今年度も主伐や間伐、新植も予算を町有林については立てておられますけども、全体として、もう10万立米出荷をふやそうという計画もあるんですよ。そうしたときには、新植の循環を考えると、最低100人は雇用が必要だというふうには思っています。主伐したら再造林が何割かはしなければならぬ。

そういう意味でいけば、やっぱり今、町長がおっしゃったように、直接森林組合とか、いろいろな木材生産組合がありますよね。優秀な事業者の方が皆さん一生懸命やっておられます。そういうところで今の研修生制度を使いながら、やっぱり体で覚える。農業も林業も座学は、理論はもちろんですけども、まずはやっぱり体で1年間の仕事を覚えるというのが本当に必要なことじゃないかなというふうには思っています。そういう現場に直接行ってもらって、しかも研修生としての研修の手当ももらいながら、現場でたたき上げてもらう。そういう仕組みにしていったほうがもっと何か広がりも出てくるんじゃないかなという、研修生自体の暮らしの中にもというふうにも思っていますけども、どうでしょうか。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）ある地方紙では、何か林業に傾注している増原町長といった言葉が出ましたので、相当そういうふうに見られてるのかなと思って山陰中央を読んだ次第なんですけども、今、きのうも、ちょっとある税理士さんに日南町の林業の状況も、企業体の状況を聞きまして、すごいですよということを知りました。すごいですよというのは、非常に利益が上がっているという意味であります。全体的に……（発言する者あり）いやいや、税理士さんですので、確定申告の中で、そういう結構たくさんの方が多額の納税をされてるということ、いいことだろうというふうには思っております。

そういう中で、今は御承知のとおり、東京オリンピック・パラリンピックでも日本の木材を使いたいというふうなことがありますし、FSCという日南町ではありますし、県内ではジャスラックというのがあります。兵庫県や京都府では、林業大学校というのを設けられておられます。1年から2年の研修でほとんどの方が林業経営体に100%就職されたとあるという状況がござります。日南町でも、そういうふうなことができないかという今模索をしております。またそういう制度が認められれば、ぜひとも日南町で、農業も大切でありますけども、とりあえず今は林業というふうなものもあります。

それと、町有林の中で非常に密植をして、出立山等で、もうどうしようもない山があります。そういうふうなところは全伐をして、例えば研修生に全伐していただいて、その収入は研修生に差し上げてもらうというふうなことも思っていますね。自伐型の林業を目指すというふうなことも含めて、やはりそういうふうな魅力がないと、なかなか日南町にじゃあ農業をしにこよう、林業をしにこようという方はいけませんので、例えば我々が昔からやっておったように、今は冬でも林業が大分できるようになってまいりました。したがって、農プラス林でもいと思うんです。農プラスアルファというふうなことで、Xということで、やはりそういうふうなことも考えながら農林業の研修生制度をより進めてまいりたいというふうに思っております。

○議長（村上 正広君）10番、久代安敏議員。

○議員（10番 久代 安敏君）ということで、じゃあ研修生を受け入れる個人や団体が一定のきちとした謝金を払って、それだけ手をとられるわけですから、指導に当たっては。それについては具体的に、これまではこのぐらい支払っていたけども、これからはこういう組み立てをしてみたいとかいうふうな具体的な計画がありますか。あれば教えてください。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）仮に林業大学校ということになりますと、多分授業料をいただくかないといけないというふうには思っております。ですから、今の研修費プラス例えば先ほど申しました新規林業の就農支援金というのがたしか制度がありますので、そういうものを活用すれば、ある程度できるのかなと。

それともう一つは、農業でいいますと、やはりいわゆるトマトであれば、例えば収穫期あたりになると、これまではお金を払っちゃいけないというふうな制度もあったわけであり、立場上、ですから、そういうふうなものも解除して、やはりしっかりお金をもうける喜び、収穫する喜びをしないと、ただ単に人のお手伝いをしてトマトがどうだというふうな話だけではなくて、お金を払っていただけるところではしっかり払っていただければというふうな制度も考えてみたいというふうに思っております。

日南町第2回定例29年3月14日

○議長（村上 正広君）10番、久代安敏議員。

○議員（10番 久代 安敏君）研修生とちよと去年のきょう、実際に研修に来られた方と経済の常任委員会とも意見交換をしました。その中で、農プラスだと、やっぱり経済的に冬場の仕事もあつちり確保されないと年間総所得が、暮らしていくのに不安があるというお話もありました。やはりそのことも研修生に初めから、計画でこれだけ反別つくったら、トマトはこれだけ売り上げがありますよ、やれますよというようなふうに受け取られないように、いや、現実には本当は厳しいんだよということをやっぱりリアルに伝えないと、折れる人もいますよ、途中で。ですから、やっぱり本当に日南町の置かれた農家の実態を、確かに一部成功されている人はあっても、ごく少数ですから。全体としてはこうなんだよということもやっぱりしっかり伝えていきながら、指導も進めていってほしいというふうに思うんですけども、どうでしょうか。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○議員（10番 久代 安敏君）青葉課長って言ったが。

○町長（増原 聡君）青葉課長に言わせるのも酷です。済みません。そういうふうなところは、青葉課長も当然引き継ぐか、自分でやっていただくかわかりませんが、しっかりやっていきたいと思いますので、頑張ってくださいと思っています。

○議長（村上 正広君）10番、久代安敏議員。

○議員（10番 久代 安敏君）最後に、学校給食の無償化の提案についての答弁を受けての再質問をします。

たまたま町のこの保育料の無償化アンケートを議会としてもいただきました、アンケートの数字を。これを見ると、保育料無償化について大変ありがたく子育て支援に有効なので、今のまま継続してほしいという方が圧倒的でした。86%です。ということは、これまでは1万から3万円ぐらい所得割で払ってたけども、非常にそういう面では経済的な助けにもなるし、その分ほかに有効利用したいということも含めてあったと思うんです。

私は、学校給食の無償化、全国の市町村数のことも申し上げましたけども、これも、やっぱり全額でなくても第1段階、先ほども言いましたけども、1割とか半額とかいう方向も考えていかれるのは、やっぱりそういう意味では子育て支援、教育の支援につながっていくと思うんですけども、なかなか食べ物、学校給食まで公費で見るとかというふうな、確かにそういう意見もあります。けども、それも支援の一つじゃないかというふうに私は思っているんで、この間、全国的にやっぱり広がってるんですよ。やっぱり子育て支援策は何を一番優先すべきかと。保育料の無償化も国や県が率先しておくれればせながらもやり始めたので、給食についてもやっぱり保護者の皆さんと、あるいは学校現場の方、教育委員会でもよく議論されて、どういう方法があるのか、先進地、実際に無償化しているところなども視察をされるなどして、教育的な効果はどうなのかということも含めて検討してほしいというふうに思うんですけども、再度教育長の答弁をお願いします。

○議長（村上 正広君）丸山教育長。

○教育長（丸山 悟君）提案として、本当にありがとうございます。これまでも先ほど言ったとおり、去年のこの御質問がありまして、あと教育委員会なり、それから保護者の皆さんと話をしていきまして。先ほど町長のほうも申し上げたところが同じことだと思えます。保護者の方あたりについても応分の負担はしていきたいという考えでありますので、それを1年間踏襲したわけでありまして。これが先ほどおっしゃるように、いろいろなところで話をしながら、無償化、どのぐらいの無償化ということも含めたところで声が大きくなってきましたら、議会の皆さん、そして町財政のほうにまた相談をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いをいたしたいと思っております。

○議長（村上 正広君）10番、久代安敏議員。

○議員（10番 久代 安敏君）残り時間は、一般質問を通じて感じたことを述べさせていただきます。

地方創生と言いつつ、本当に地方は深刻なんです。町長は頑張っておられるけども、なかなかそうはいっても緩やかな人口減少は50年続くと言われております。人の奪い合い、要するに日本全体の中で人をいろんな自治体がいろんな形で、いわばいろんな政策で奪い合いは続いているけども、絶対的な人口減少は50年続く科学的にも分析されています。そういう中で、小さくても安心して暮らせる、町長も施政方針で言っておられましたが、眠れない夜が続かないような、町長の施政方針にあったけども、我々もやっぱり本当に皆さんのきめ細かい意見を聞きながら、何とかこの地方を再生していく、そのところが我々議会にも執行部にも求められているんじゃないかというふうに思いますので、より政策論議をこれからも進めていきたいというふうに意見を申し上げて、私の質問を終わ

ります。

○議長（村上 正広君）答弁はよろしいですか。

○議員（10番 久代 安敏君）はい。

○議長（村上 正広君）関連質問がありますか。

4番、古都勝人君。

○議員（4番 古都 勝人君）同僚議員の一般質問の中に、今回、農林業研修生の指導要領を改善するという話で、研修の進捗確認や総合的な支援体制を整備するという話が今なされました。私がかねてから考えておりましたけども、例えば農林業なんでしょうけども、もっと品目ですね、具体的な、例えばお隣の日野町ではシイタケでおいでになった方があるというような実例もあるわけで、本町も、おいでになった方の歩どまりという話もきょう出ておりましたけども、現在TPPがなくなってもあっても和牛については平均単価50万が100万まで上がっております。非常に近年のそういったものの中では伸びが大きいと。そういう中で、当地は因伯牛の一大生産地であった時代があって、その後、霧酔病等で非常に生産者が減少しとるわけですが、現在、町内では黒毛和牛については約2名程度の若い方が就農されて非常に勢いが高くなってきております。また、高齢者の方は、いつまでやれるかなと言いながら非常に高い技術を持っておられる。そういった方向で研修制度に、黒毛和牛とかシイタケとか本町の素材を生かした、技術を生かした、あるいは経験を生かした項目の研修生等も募集されては思いますが、そういったお考えがあるのかないのか、お聞かせをいただきます。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）実は私もその辺が非常にちょっと、じくじとは言いませんけども、何か日南町という、トマトというふうなイメージでトマトを希望されて来られます。トマトというのは確かに収量もあれですし、収益率もまあまあいいわけですが、期間が限られております。また、非常に設備等に、当然畜産もかかるわけですが、そういうふうなところで来れますので、例えばお米はどうですかとか果樹はどうですかとか和牛も含めてどうですかというふうなお話をするんですけども、どうも来られる前から、見る前からトマトをみたいなお話をされておいて、非常にちょっといろんなものを見ていただきたいというふうに思っております。

そういう中で、今、和牛の話が出てまいりましたけども、非常に若い方で和牛を積極的にやられてる方がおられます。また、増頭をされてる方もふえてきておりますので、そちらのほうも支援をしてまいりたいと思っております。また、今度宮城で全共があると思うんですけども、そちらのほうの候補にもなっておりますので、ぜひともそういうふうなところにも出ていただいて、全国的に、かつては日南牛というふうな言っただけですけども、その名前を今は因伯牛というふうな言っただけでありますけども、その名前を売り出していただきたいと期待するものであります。

○議長（村上 正広君）以上で久代安敏議員の一般質問を終わります。

○議長（村上 正広君）引き続き、6番、タブレット4ページ、大西保議員。

○議員（6番 大西 保君）平成29年度町長施政方針で増原町長、2期8年目の最終年度に当たり、「日南町を次世代につなげる行政」「ついの住みかとして住んでよかったと思える町」を町政運営の基本として取り組む決意を表明されました。新たなまちづくりに積極的に取り組んでおられることに敬意を表します。

私は、本年1月の議会だよりの編集後記でこのようなことを書きました。本年はとり年です。鳥は、福や財産を取り込むということから商売繁盛の意味があるとされてます。また、鳥の目は広い視野を持ち、現在どのような状況下であり、何が最も重要な問題なのかを感じ取る目とも言われています。ことしは日南町にとってどのような年になるのか。これから始まる3月議会では新年度の町長施政方針や予算審議があります。町の施策に対して鳥の目を持っていろいろな角度、視野で点検、検証し、また、提言を行う決議を新たにしましたと書きました。

そこで、施政方針の中で2つの施策について質問をいたします。

まず1点目は、道の駅日野川の郷の初年度としての取り組み成果をどのように評価されているのか。来客数15万人、町内農林水産物の販売額4,800万円、品目別売上高とその比率は計画に対してどうなったのか、また、雇用創出、人員26名の内訳はどのようなか。2点目は、評価の結果、課題点を29年度にどのように改善されるのか。3点目は、28年度のカarbonオフセットのCO₂排出量は幾らになるのか。

2点目は、社会体育館新設についてです。

日南町第2回定例29年3月14日

平成30年度当初予算に計上を予定していたが、国、県からのさまざまな補助金等を可能な限り活用しながら、緊急防災・減災事業債の活用を念頭に積極的に展開していくとなっております。現時点での基本構想はどのような考えなのか、また、完成はいつごろを目指しているのかをお伺いいたします。よろしく願いいたします。

○議長（村上 正広君）執行部の答弁を求めます。

増原町長。

○町長（増原 聡君）大西保議員の御質問にお答えいたします。

道の駅の初年度としての取り組みの成果と評価であります。道の駅は、地域内の経済循環、町民の所得向上、農林水産物の町産品のブランド化、6次産業化などを推進するたため、また、交流人口の増加や町の魅力の情報発信拠点として整備いたしました。初年度としての成果の指標は、施政方針の中でも説明させていただきましたが、その他、二次的な効果として、交流人口の増加に伴う町内観光施設、商工業者、飲食店への経済効果なども少なからずあったと考えております。

初年度の評価としては、計画の売上利益は達成できましたが、売り上げ目標には届いていない状況であります。また、加工品等については計画を達成いたしましたけども、生鮮野菜を中心とする町内産品の販売促進をさらに進めていく必要があると考えております。これについては、生産者部会のほうで各地域ごとに責任者を設けて、より生鮮物を出すという方向で進められるというふうに聞いております。6次産業化についても、加工実習室などを活用してドレッシングを初めとして新たな加工品も生まれ、工芸品も販売されております。日南町らしい特色ある商品となっておりますが、特に加工実習室については非常に稼働率が低いと認識しております。これについては、新年度、そちらのほうを重点的に夜も含めた加工実習を行って、女性も含めた生産者の方々の加工を進めてまいりたいというふうに考えております。

また、来駅者の人数から見ても、情報発信施設拠点としての役割をさらに強化していく必要があると考えております。品目別売上高比率についてはレジの分類データを提出させていただいております。雇用人数の26人につきましては、これはパートも含みますが、内訳では、直売所で9人、レストランで6人、加工施設で3人、障がい者作業施設で支援員さんと利用者8名という状況であります。特にこの中でまだ見直しをする必要があるというふうに思っております。より効率的な、例えばレストラン部門でいうと、今6人でありまして、これが果たして適正配置なのかなど、個人的には少し多いのではないかとこのように考えておりますので、その辺も含めて道の駅との協議もしてまいりたいというふうに思っております。

さらに、課題点の改善についてでありますけども、オープンから1年近くを経て課題として捉えている点ですが、初年度売上額が目標に届いていない状態であり、生鮮野菜等を中心とした日南町の農林水産物の販売はまだまだ伸ばしていけると考えております。そのためには、さらなる出荷促進を出荷者協議会と道の駅、町が連携して推進していく必要があると考えており、今後、集荷の体制も含めた検討も必要であります。また、在庫物等も廃棄されていたり、持って帰っていただいたりしている状況もありますので、この辺もやはり有効活用するという姿勢が必要だというふうに思っております。

また、冬場の品ぞろえについても、加工品などのカバーができる工夫も必要であります。具体的に言いますと、お漬物が出まして大根漬けが出ましたが、あっという間に売れました。やはりそういうふうなものも冬場としてはしっかり出していく必要があると思っております。経営管理については、皆様方からいろいろ御指摘をいただいておりますけども、毎月の経営者会議において、収支計画も含めた経営計画の管理を徹底していくことを委託事業者と町で実施するように確認をしております。電気代や水道代等についても、しっかりとした案分ではなくて積算で出していきたいというふうに思っております。

また、道の駅の魅力発信として、以前に近藤議員のほうからも、観光案内施設をあの中に置いたらというふうなことがございました。これについても、4月からそのようにして、道の駅と連携をした観光案内というふうなことをして、道の駅を中心として町内のさまざまなところに訪れていただくというふうなことも考えてまいりたいと思っております。

また、28年度のカーボンオフセットのCO₂排出量は、道の駅施設の、農林課から資料を出させていただいておりますが、12月末現在で104.9トンという実績であり、28年度中の総排出量見込みは約140トンと推計をしているところでございます。

以上、大西保議員の御質問に対する答弁とさせていただきますが、社会体育館については教育長から答弁をさせます。

日南町第2回定例29年3月14日

ただ、1点、非常に悩んでおりますのは、今、健康増進施設と、それから社会体育館を別に建てるというふうな考え方をしておりますけれども、果たしてそれがいいのか、一緒に一体的にしたほうがいいのか、また、冷暖房というふうなものも加味をしたほうがいいのか、もしくはバイオマスエネルギーというふうなものの活用はできないのかというふうなこともあわせて考えながら、もう一度、施設の総枠は変わりませので、住民の方々や体協の方々とお相談をしながら検討してまいりたいというふうに考えております。以上であります。

○議長（村上 正広君）丸山教育長。

○教育長（丸山 悟君）大西保議員の御質問にお答えいたします。

まず基本構想についてでありますけれども、平成28年度は社会体育施設検討委員会を開催しまして、その会の中で社会体育館の今後のあり方について検討していただきました。現在は、この会でまとめたいただいた御意見を尊重しながら、財政の状況も勘案しながら新しい体育館を検討しているところであります。皆さんに出ささせていただいたところであります。

現時点での案としましては、現在の位置に小・中学校と社会体育館とが共用する体育館を新しく建てかえたいと考えております。構造は鉄筋コンクリートで、内装には町産材を活用したいと考えております。規模は1階建てで、LEDによる照明やシャワーも設置したいと考えております。若干町長のほうは、健康増進の部分もどうかと悩んでおるといことがありましたけれども、現在の状況を申し上げますと、別に、その委員会の中でも、健康増進の施設については、いろいろなところの思いがあるので、新しいところで考えていこうという考え方が出ておりますけれども、その辺も含めてまた考えたいとは思っております。また、防災機能も兼ね備えたいと考えております。具体的には、防災用物品の備蓄倉庫を設置するとともに、多目的トイレやスロープといったバリアフリーに配慮した施設を指し、テレビや電話、インターネット等も利用できる環境整備に努めていきたいと思っております。設計を委託するまでには、これらを案をもとにして協議を重ね、町民の皆さんに満足して使っていただける体育館にしたいと考えております。

次に、完成はいつごろは目指しているのかということでもありますけれども、平成30年度中の完成を目指しているところであります。そのために29年度早々には設計の業務の入札を行い、発注をしたいと考えておりますし、予定では12月ごろには議会での契約の議決を経て、解体、本体工事に入りたいと考えておるところであります。

以上、大西保議員の質問に対する答弁とさせていただきます。よろしくお願いたします。

○議長（村上 正広君）一般質問の途中でありますけれども、ここで暫時休憩をいたしたいと思います。再開は午後1時といたします。

午前11時57分休憩

午後 1時00分再開

○議長（村上 正広君）休憩前に引き続き会議を再開いたします。

引き続き大西議員の一般質問を行います。

ただいま執行部の答弁までが終わっておりますので、再質問がありますか。

6番、大西保議員。

○議員（6番 大西 保君）昨年1年間というんか、ことし3月まで、この道の駅、初めて大がかりになりました。それで成果は、いろいろありますけれども、一生懸命頑張っている姿を見ておりますし、達成できなかったことは、きっちりどういうふうにやっていこうかということとされてると思うんで、私はちょっと3点の角度から見ていきたいと思ます。

まず、経営資産ということで、売り上げが9,800万に対して7,400万で、75%達成です。売上原価は70%ということで、この数字、75、70ですが、普通経営する場合はプライマイ20ぐらいは若干少なかったというイメージです。ただ、その中で、売上利益がもう105%ということです。ここで中身が一番大事で、その売上高に対する中に、やはり町に落ちた金というか、町の農産物で4,800万、これは大きな農家に落ちたということでこれはすばらしいんですが、4,800万のうちトマト加工が1,000万、それはあくまで直売所で売れたという金額ですので、それはいいと思う。だから3,800万が実際道の駅です。ということは、7,400万に対して町内の方については3,800万、ですから町外から仕入れた、ざっくりです、あくまでざっくりですが、半分以上は町外から仕入れられたと。中身の原価を見ていきますと、米が7%、そ

日南町第2回定例29年3月14日

れから野菜が15%、加工品は20%という手数料だったんですけども、原価が、これは原価率でいくと21.6%、逆に普通だったら15.5になるんですが、21.6ですから、この中身をどのように見ておられますでしょうか。

○議長（村上 正広君）木下企画課長。

○企画課長（木下 順久君）申しわけありません、原価の21.6%と言われましたが、どこの数字を言われましたでしょうか、もう一度確認をさせてやってください。

○議長（村上 正広君）6番、大西保議員。

○議員（6番 大西 保君）当初計画が8,285万で見込み額が5,768万ですね、これでいくと78.4、原価のあれが。だからそこを言うとするんです、21.6です。だからこれは、逆に言うと、すばらしいいうことを言いたいわけです。

○議長（村上 正広君）木下企画課長。

○企画課長（木下 順久君）失礼いたしました。売上粗利率が当初見込みよりもかなり上がっております部分につきましては、本日皆さんのほうにもお配りしております当初の売り上げ目標に対する実績の表を見ていただければ顕著にあらわれている部分としまして、その他の欄の土産物品ですね、この部分が当初計画に対して246%ということと2.5倍程度の売り上げ、当初計画以上のものが売れておるということで、この部分は、いわゆる一般的な土産物、鳥取県内の幅広い部分、それと近隣の土産物も取り扱うということと県境の町らしい道の駅を目指したわけですけども、その部分のいわゆる仕入れ品に係る土産物の売り上げが多く上がっているという部分で、仕入れ差益といいますか、その部分で仕入れ品全体では3割から4割ぐらいの利益率があるというふうに思っております。そういったところで利益率、粗利率を持ち上げたものだというふうに思っております。

○議長（村上 正広君）6番、大西保議員。

○議員（6番 大西 保君）そこなんです、本来農産物であるとか町内の加工物を売ると。ところが、なかなか売れてないということで、やはり経営というのはマイナスが出た場合には必ずプラスをしなければいけない。そこは経営努力でされた結果です。ですからこれについては、数字だけですけども、売上総利益は105%です。達成しとるわけですね。中身はともかく、売り上げについては達成しとるわけで、ここはいいわけですね。

もう一つ、売上高の実際に農産物、大変苦戦されてます。当初5,000万円の計画をされてました。結果でいくと1,000万円、約20%です。結果を見て残念だなと思ったんですけど、なかなか農産物が売れない。それは、もう農林課長とか出荷者協議会、相当苦労されたと思います。そのときに、昨年の計画の中へ月ごとに幾ら、何袋売るんだという計画を出されました。本当に苦労されたと思います。それについて、何袋とかいう数字の計画数字がありますけども、それを何袋売れたという管理はされておられたでしょうか。

○議長（村上 正広君）木下企画課長。

○企画課長（木下 順久君）当初、JA、仕入れというところで主要4品目につきましては相当な額の、委託販売分も含めて5,000万というふうな計画を出させていただいたわけですが、実際の売り上げという部分につきましては売り上げ実績を見ていただいたとおり、仕入れに係るものについては数十万というふうな結果になっております。ほとんど仕入れをしてないということで、出荷者協議会からの生鮮の出荷のみで販売をしていたというのが実情でございます。その部分で、トマトが最盛期、8月中心だと思っておりますけども、このときに進物用であるとか、小売も若干いたしておりますけども、仕入れをしたという実績は聞いておりますので、実績としては8月ぐらいにトマトを入れておられます。ということで、月ごとの管理をするほどの仕入れが実際できてなかったというのが実情でございます。

○議長（村上 正広君）6番、大西保議員。

○議員（6番 大西 保君）私は、せっかく農林課長とかこれをつくられて、苦労されて細かく月何ぼ何袋というのをつくっておられる。苦労されたと思います。また初めからどうなるかなと、朝どれ産もいろいろあるし、これはどうなるかなということで農林課長も大変苦労されたと思います。その成果を、この計画でどれだけ差異があったかということとを管理しないと次に生かせれないんですよ。ざっくりやっしまえば、これはほかのころにも言えますし、いろんなことに言えます。だからそこは一番大事なところを言っておるわけですね。せっかくつくった計画をちゃんと把握しないと。答えでいきますと、予測では20%です。厳しいですね、確かに。ただし、これは29年度は倍増するのか、1.5倍にするのか、その辺の話はされておられますでしょうか。

日南町第2回定例29年3月14日

○議長（村上 正広君）木下企画課長。

○企画課長（木下 順久君）初年度、生鮮物を売っていく中で、いわゆるJAさんの系列の販売の中から店舗に不足しているものを仕入れていくというふうな考え方ではおりました。ただ、初年度、出荷者協議会も1年目ということで、どのぐらいのものがどの時期に出してくるかというのがなかなか読めない部分もあったようでございます。2年度目は、大體に1年度目の経験から、こういう時期にたくさんお客さんいらっしやって、こういうものを求めていらっしやるということは現状が把握できておりますので、それに合わせた仕入れも今年度ぜひ伸ばしていきたいというふうに思っておりますので、具体的な数字としましてお示しを今できませんけれども、JA仕入れにつきましては今後伸ばしていきたいというふうに考えております。

○議長（村上 正広君）6番、大西保議員。

○議員（6番 大西 保君）私は、実際に農家でもないし、植えたり、そういうことはできません。ですから大きなことは言えません。ああせいこうせいなんて言えませんけれども、私が言いたいのは、このような管理指標、せつかくこういったものをつくっておられるに、これを来年生かすにはこれをきちっとしとかないと、こういった経験を生かすためにはデータが一番大事なんです。だから何をベースに話されるか。今初めて28年度の実績が出たわけ、今までの想定じゃない。ですから、これをベースに来年度の計画をされるわけですね。これは後で言いますが、運営経費と一緒に。毎月の実績をつかんでないから結果的にこうなっていくわけです。だから来年度の予算、もう先に言ってしまいませんけれども、町長も、積み上げですと、委託はって言われました。積み上げでしょ、これも積み上げなんですね。本当にこのデータが、何袋売れた、POSで今やっておられます。今の時代はパソコンでやったら何ぼでもデータできるわけですが、そのデータはあるけれども、上手に生かさないと方向を誤るわけです。一番大事なところを言っとるわけですね。これは企画課がするんや、いや、これは農林課がするもんや、いや、これは出荷者協議会と、直売所だとならないように、私はこの一例だけで言います。

あと、米につきましても1,500万に対して260万円、17%、これについてはどうなんでしょうか。

○議長（村上 正広君）青葉農林課長。

○農林課長（青葉 誠也君）米につきまして、数値との差異というような御議論だと思っておりますが、計画数値につきましては1,500万、これをどうやって積み上げたかといいますと、店舗で売る米、それからM・Aにエナジーからの移管という米の販売方法、それから今ずり米という販売方法、それから農家さんから持ち込んでいただく商品としてのお米というふうなこの3部門で計画は立てておりましたけれども、現実的にM・Aのほうの米販売のほうはなかなかちょっと伸びがなかったということと、それから今ずりの部分、それから農家の持ち込みの部分につきましては、やはりテスト販売というふうなところがありましたもんですから、どちらかというところ、ちょっと様子を見たところもありますし、町内の大きな法人さんから商品化されたものが出ております。これあたりは今後も農家のほうの積極的な商品化というような観点から捉えますと、まだ伸びはあるというぐあいに思っておりますし、日南町の米ということで非常に高い評価をいただいております。これあたりをやはり商品にしないと農家のほうの手取りになりませんので、その辺は考えていきたいと思っておりますが、なかなか店舗販売のほうは、M・Aのほうの要するにはエナジーからの販売システム移行分というのがちょっと伸び悩んだということは反省をしておりますので、今後のほうに生かしていきたいと思っております。

○議長（村上 正広君）6番、大西保議員。

○議員（6番 大西 保君）今、農林課長が苦労されてることやいろいろ話されました。それを必ず29年度に引き継ぐなり、次に生かしていただけるようによろしくお願い致します。それが一番のノウハウでございます。恐らくこれ2年ほどずっと道の駅のために相当苦労されたと思っております。その苦労を残して、次に発展するような形に持っていっていただきたいと思っております。

次に、雇用創出の26名、これについては大変よかったなと思っております。日南町、なかなか雇用がないところに26人の創出をされたということですが、これについては今回答をいただきました。もともとの計画は何人であったのか、お伺いします。もともと出された計画、道の駅での人員は何人に対して26人になったのか、内訳をお願いします。

○議長（村上 正広君）木下企画課長。

○企画課長（木下 順久君）申しわけありません、当初の雇用計画人数の資料、今手元に持っておりません、明快な答弁ができません。申しわけありません。記憶しております

日南町第2回定例29年3月14日

中で、直売所につきましても、そのほかにつきましては、実績で若干人数がふえたということでも、経費も膨らんだわけでございますけれども、ほぼ予定どおりというふうにも思っておりますし、ちょっと加工所につきましても、テナントということでは雇用人数までは把握してはおりませんでした。

○議長（村上 正広君）6番、大西保議員。

○議員（6番 大西 保君）2年前、2015年12月11日、中心地域整備に関する調査特別委員会資料が出てます。ですから1年3カ月ほど前に、道の駅での雇用創出、道の駅8人、レストラン6人、作業所7人、合計21名です。それに対して今26人ということと言われましたので、だからその対比はどうですかという質問をしたわけです。この作業所7名というのはどのようなことでしょうか。

○議長（村上 正広君）木下企画課長。

○企画課長（木下 順久君）作業所の7名につきましては、恐らく支援員が2名程度と利用者5名程度ということでの運用開始を今は支援員さんが3名、利用者が5名ということでございますけれども、当初の7名につきましては、2名程度、5名程度というふうな事業の開始をすとしておったというふうに思います。

○議長（村上 正広君）6番、大西保議員。

○議員（6番 大西 保君）これについては委託料は別に支払っておられます、390万円。私はちょっと調べてみたんですが、トマト加工はこれには入っていないんですが、全体として道の駅プラスとして新規に3名、それはいいんですが、それを抜きますと23名になるわけです。21に対して23だけですね。ただ、その作業所というのが7だったもので今質問したわけですが、実際に今作業されてる方が5名で、支援されている方が3名と言われました。この委託料の根拠はどうですか、委託料の根拠。

○議長（村上 正広君）木下企画課長。

○企画課長（木下 順久君）委託契約につきましては、先ほど言われました三百数十万の年間委託料を見込んでおります。委託料の根拠としましては、いわゆる道の駅、トイレほか施設の清掃に係る拘束時間に最低賃金以上の単価を設定をさせていただいて、1日当たり何人で全体の施設を何時間かけて清掃されるかということでの年間のかかる経費を計上させていただいたとございます。

○議長（村上 正広君）6番、大西保議員。

○議員（6番 大西 保君）これは本当に作業されてる方なんかを見ますし、一生懸命されてます。それはいいんですが、私は、その根拠を質問したわけですが、それは、28年度予算も出ましたし、29年度予算も同額出とるわけですが、ですからその根拠は私は教えてほしいと。同じ金額です。その詳しい内容はどこにあると思いますか。私は資料を持っていますよ、これは中心地域の企画課の出してる数字です。ですから今言われた、最低賃金とか言われましたけれども、これは3人なんですね。今、作業所では5人、これはシフトだと思えます。だからその辺をお聞きしたいわけですが、それで支援員の金額は入ってるんですかということもあるんです。

○議長（村上 正広君）木下企画課長。

○企画課長（木下 順久君）委託契約につきましては、契約書のほうをまた精査をして資料でも出ささせていただきたいと思っておりますけれども、いわゆる道の駅の施設に何時間で何人でしてくださいというふうな契約をしております。それで単価を掛けたもので金額を算出してしております。5人いらっしゃっても、実際の道の駅での委託業務の範囲は何人で何時間というふうな指定をしておりますので、それ以上やられておればクリアだというふうな考え方でおりますし、雇用としてそれ以上されておられて、道の駅の清掃以外の仕事を作業所でされることも、それは可能だというふうに思っております。

委託料の算出の根拠となっておりますのは、利用者の方が実際お仕事をされる部分での算出根拠になっております。支援員さんにつきましては、これはまた別途、いわゆる障がい者施設の運営の中の補助金というのがあるようでございますので、そちらで支援員さんの人件費は賄われる計画になっております。

○議長（村上 正広君）6番、大西保議員。

○議員（6番 大西 保君）詳しい内容をもう一度教えてください。

ちょっと1つお聞きしたいのは、これは、掃除された実績は月ごとに企画課なりがチェックされてるのか、年度末まででチェックされるのか、それはどうなんですか。

○議長（村上 正広君）木下企画課長。

○企画課長（木下 順久君）委託に係る検査につきましては、日々の日報でありますとか月報をつけていただくようお願いをしております、28年度は四半期ごとにその実

績を私が見させていただいて確認をとった上で、四半期ごとの委託料の支払いをしております。

○議長（村上 正広君）6番、大西保議員。

○議員（6番 大西 保君）四半期ということは3カ月単位ですね。ということは12月末で見られたということですね。わかりました。じゃあ、それはきちっとされてるということで、それで終わります。一応この根拠については後ほど出してください。29年度の予算のほうにも同じ同額が入っておりますので、よろしくお願ひします。

次に、課題点はいろいろあるんですが、町長の方針の中で、28年度の反省をもとにし、しっかりとした経費計画と販売計画を作成しなもので、この言葉を揚げ足とるような言い方をしてはいけませんけども、しっかりとした販売計画はできたんでしょうか。

○議長（村上 正広君）木下企画課長。

○企画課長（木下 順久君）今現在、委託料の算出根拠として出させていただいている数字につきましては、大まかにどの部分をどれぐらい伸ばしていこうかというふうなお話は、委託業者と一緒にさせていただいた上で算出をさせていただいております。具体的なその手法につきましては、今、道の駅で昨年度の売り上げ実績等を見ながら、細かいところのどういふふうに物を集めて売っていくのかということにつきましては、現在現場のほうで詰めていただいております。

○議長（村上 正広君）6番、大西保議員。

○議員（6番 大西 保君）そうしましたら、29年度のまだ販売計画はできてないわけでしょうか。

○議長（村上 正広君）木下企画課長。

○企画課長（木下 順久君）販売目標数値は一応持っております。

○議長（村上 正広君）6番、大西保議員。

○議員（6番 大西 保君）その販売計画は月ごとになっておるのでしょうか。

○議長（村上 正広君）木下企画課長。

○企画課長（木下 順久君）済みません、今現在では総枠、年間通じての計画としております。

○議長（村上 正広君）6番、大西保議員。

○議員（6番 大西 保君）私は、そこなんですよ、一番大事なのは。4月に入ってから計画をつくるではもう遅いわけです。新年度は4月からですね。もうでき上がって、根回しやらいろいろやってやらなければならないのに今現在できてないということですか。恐らく4月に入ってから6月ぐらいに稼働するんじゃないかなと。済みません、失礼な言い方をしました。それほどやっぱり農家の方も野菜を出される方も、もう植えつけておられると思います。ですから、そこでやはりどういう昨年のいい面、悪い面をどう生かそうと、そういう作戦も練っておられると思うんですね。やはりある程度の精度を高め、昨年は仕方なかったと思うんです、初めてやったんだから。ことしは、新年度、多少精度を上げていくための数値を今お伺いして、だから私が今言いたいのは、次に経費のことに入るんですが、販売計画がきちりとできてない状態で経費計画はできるものでしょうか。どうなんでしょうか、答弁をお願いします。

○議長（村上 正広君）中村副町長。

○副町長（中村 英明君）先ほど課長も申しあげましたけれども、今の段階では、当面、検討が既に済んでいるのは、イベントの計画あたりはきちんとさせてもらっておるところであります。ただ、その中で、それに係る経費というのは当然出していくというふうに思っております。それと、歳出の段階で今一番大きいのは人件費あたりだろうというふうにも思っておりますので、その辺についての固定給あたりのところはきちり計画の中で出てきております。ただ、推進するに当たって売り上げのボリュームとかということになりますと、その状況に応じた形での増ということはあるのかもしれませんが、ただ、あわせいろいろな事業を行うことによつて一応の科目別な費用見込みというのはつくってありますけれども、それを合わせながら人事執行の中で再確認をしながら、場合によっては投資をしていくということもあるのかもしれませんが、大まかな計画というところはもうつくってありますので、それに準じた形で月々に精査していきたいというふうに思っております。

○議長（村上 正広君）6番、大西保議員。

○議員（6番 大西 保君）私は、民間の経験が長いので、民間で何をするかといったら、一番はやっぱり販売なんですね。販売があつて会社経営なんです。販売がないのに経費だけかかったら全部赤字です。ですから販売が上がれば比例的に経費が上がってもいい

わけです、管理可能経費という形で。一番大事なところを言っとるわけです。このままほっておけば、28年度は、当初3,200万の運営経費でしたけども、今現在3,900万、計画に対してまだマイナス700万、いろいろ事情はあると思います。初年度だから700万かかったかもわかりませぬ。でも2年度に要らない費用も出てくると思います。そういった精査をまず経費として見るのと、やっぱり売り上げがあつての経費ですから、人もそうです、もういろんなところで経費で見えていかなきゃいけない。だからその手法を、言っておるわけで、今言いましたように町長の方針では、委託料内での経常利益の確保を、目指すとうたっておられます。実はこの件につきまして私、質問しました、あるところで。委託料内での経常利益を確保とは幾らだという質問をしたんですが、もう一度質問します。経常利益確保を目指すということは幾らなんでしょうか。

○議長(村上正広君)木下企画課長。

○企画課長(木下順久君)本年度の委託料の積算の根拠として出させていただいた数字は、いわゆる二千万の委託料を入れながら収支をゼロに持っていくというところをまず第1段階の目標としておられますけども、要は、そこからいかに売り上げを伸ばしていけるのか、そして経費を節減できるのかによってゼロをプラスに変えていくという努力をしていきたいということです。

○議長(村上正広君)6番、大西保議員。

○議員(6番大西保君)端的に言いまして、委託料内での経常利益ゼロを確保するのは、委託料を入れてゼロにするよということなんですね、経常利益を。だからそこが一番ポイントなんです。これが赤字になってからどんどん赤字になっていって、どんどん必要となる。それを見るために、今販売があつて、必要経費こんだけ経常利益はゼロを目指すという町長の思いが町長の施政方針に出されたわけです。それをもとにこれから、4月からつくられるかどうか知らないですけど、そこが一番ポイントなんですね。そのために新年度予算ではどかんと2,300万円委託料が上がってます。だから不足の分はもう上げるだけだと。私は2年度目が大変厳しいと思うんですね。そんな厳しい厳しいと言ったら萎縮するからいけませんけれども、本当に初年度で15万人も来ていただきました。これは大きな日南町に15万人来ていただいて、それはすごいことだと思います。

ちょっと道はそれですが、15万人で、客単価と言つてはいけませんけども、7,200万、7,500万になった場合、1人当たり500円です。買う買わんは関係ない、500円は落とさせていただいたわけです。それを逆に、買った方、レジ通過をはかったら、4万2,000人レジ通過をしている。逆に、それでトマト加工は9,700万です。それを逆算すると、実際に1人当たりの単価は1,600円です。だから、ローソンであろうがいろんなところでも、いつも客単価、客単価言うわけですね、そういったところは。だから1,600円の客単価はいいですよ。ローソンは大体500円とか、ほかの会社を言つてはいけません、あそこは400円とか、それですつといつも日々管理して、時間帯も管理しやっておるわけですよ。

私が言いたいのは、民間のノウハウでということ。道の駅を委託された、それはいいんです。だからそれを生かして町行政がどういう支援ができるかいいんですけども、その辺でいくと、委託契約仕様書の中でいろいろありますけども、本当にそれを守っておられるか。やっぱり行政はそういったルール化がめっちゃくちゃ上手ですから、それを生かしながらきちっとやるということ。それで私は、経営の中で、これは失礼な言い方するかもしれませんが。財務諸表の3点セットとよく言うんですけども、失礼な話やけど、PLがわかつておられるかな。損益計算書の簡単なことです。これは普通でしたら固定費が要ったり、固定資産とかいろいろあるんですけども、もう固定費を払わなくて何も無い物すごいシンプルな損益計算だけなんですね。バランスシートまで言いません、キャッシュフローまで言いません。その中で本当に民間ノウハウを活用されてるのかどうか、担当課としてはどうでしょうか。指名したらいけませんね。その辺、本当に民間ノウハウを使つてるのか、私は疑問を抱いとるわけです。

せっかく民間資本で、いや、町が主導されたとかいう言葉があつたもんで、どうでもいいんですけども、結果が、2月の末に出されたあの経費のあれを見たときにショックを受けたわけですね。当然町長も大変ショックを受けたと思うんですけども、その辺が一番ポイントなんで、だから町長が施政方針で、この反省をもとにしっかりした経費と販売計画を作成しとうたつていただいています。3月議会は、今回は施政方針の後、予算審査を終わって今の一般質問ですからちょっと順番が違つるので、あえてこれで聞いとるわけです。その辺、やっぱり町長のほうからちょっと御答弁いただきたいんですが。

○議長(村上正広君)増原町長。

日南町第2回定例29年3月14日

○町長（増原 聡君）今おっしゃるようになって、せっかく民間でやりましたんで、これまで第三セクターで数多くの日南町も含めて失敗をしておりますし、赤字が出て町が負担してくれらんだというふうなやっぱ甘えがあったのだからというふうに思っております。今回M・Aさんにお願したというのは、やはり民間のノウハウというのをしっかり考えていただきたく。M・Aも決して大きな会社ではございません。160人ぐらいの会社でありますので、米子では大きいわけですが、経営自体も厳しい会社だろうというふうに思っております。そういうノウハウをしっかりと生かしていただきたいというふうに思ったわけでありまして、正直、道の駅、多分議員も御承知のとおり、POSシステムも含めて現場と会社のほうが何かそこが違って、いつ書類をもらってもどれが本気なのか、だんだんだんだんわからなくなってくるような状況になっておったわけですが、その辺は話の中で、M・Aは正直言って非常にやる気は持っていることしはおります。日南町に総額、補助金も含めて6億円もの施設を扱っていただいておりますと、それをM・Aとして赤字というふうな形で終わりたい。我々も、男だというふうな言葉はおかしいわけですが、商業者、商売人としてぜひとも黒字を出したいというふうなことを思っております。

先ほどおっしゃるようになって、じゃあ、今、新年度予算の中で毎月の経営の計画ができるとかという、正直言って完全にはできておりません。目標が出ておいて、月数のものが全く出ていないというふうな状況であります。ただ、M・Aのほうも16日には参りまして、その辺を詰めようというふうな話をしておりますので、年度内にはぜひとも詰めて、やはりそれをしっかり毎月毎月検証していくということをやりたいというふうに思っております。

○議長（村上 正広君）6番、大西保議員。

○議員（6番 大西 保君）ありがとうございます。今までの反省をもとに町長みずからがそういった答弁をしていただきまして、ありがとうございます。そのようによくしていくための話をしておるわけです。

ただ、私、1点、この1月、中心地域の委員会、2月の末の委員会の2回、その中で大変残念だと思ったのは、これは申しわけないんですけど、1つの事例です、あくまで事例として聞いていただきたくはんですけども、やっぱり我々議員としては情報提供の範囲でしかチェックができませんけども、想像で答弁されると後で困ってしまう。我々、チェックしようがない。1つの事例は、何回も言いますが、電気代のございました。何かちょっとおかしいなという疑問から、ずっと質問しなかったらあのままいってしまっただけで、何がどうなったかわからないという形です。やはりレストランについても、本当にレストランが毎日経営しておれば、おかしな電気代、どうなのかなと。レストランも年度末に電気代を払うんだというんであればそれでいいんですけども、レストランも経営せられないかんわけですね。月々、いや、委託料は年度末終わって40日以内にもらうんだからとなっておったのかどうかかわからないんですけども、やはりその辺をちょっと危惧します。レストラン経営をわあわあ言いませんけども、やはり同じことだと思わなければならない。だからこっちは経理の計算できて管理できておいて、こっちはできてないというのはないと思う。同じだと思わなければならない。だからポイントのそこだけは間違わずやっていた方がいいので、本当に担当課は大変でしょうけど、その辺、販売については農林課長も大変でしょうけども、道の駅をよくするために、それとまた、町執行部の方も、休みには、やっぱり愛情を持っておられますから町長みずからフリーマーケットで売られたり、皆さんが出ておられるその姿はよく町民も見てると思うんですね。やっぱりみんなで盛り上げるためにやっていると、これを生かすために正確な情報、また正確な答弁、わからなかつたらわからないで、また後から調べて出しますとかいうことをやらないと、議会としてもチェックのしようがございません。今後いろんな予算を出す中で、我々も議会として責任を持ちたいし、責任は持てないかわかりませんが、やはり出された資料についてわかりやすくしていただきたい。これについては、また予算審査の後で話が出ますが、そういう形をお願いしたいと思います。

それで、町長、私、ちょっと見ておるのは、ハウレンソウという言葉をよく聞かれると思うんですけども、確かに町長が全て把握するわけにはいきませんからポイントというところで、課長、それから室長さんとか、いろんな方が問題だと思ってるんですけども、何か私、町長のほうに本当に問題点が上がってるのかなと危惧するんですが、町長はどう思っておられますか。本当に問題点が上がってきてるのかな、それとも課長でとまってるのか、室長さんでとまっているのか、それはどのような感じをされておるのでしょうか。

日南町第2回定例29年3月14日

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）ホウレンソウは上がってきておると思っております。これは常に言うておるんですけども。ただ、私、ホウレンソウの中で言うことは、これは朝礼でもよく言うんですけども、ホウレンソウはいいんだけど、自分としてはこう思うと、町長、私はこう思うと、町長はどう思うかということをしてほしいと。町長、どうしましょうと言われても、正直言ってそのホウレンソウがずっとあっても全てのことを私どもが認識をしてるわけではないですので、どうしようかというののまず前に、自分たちはこうしようと思うことを先に言うてくれと。その中で、私どもが決めたこと、職員が決めたことでも私がオーケーを出したり、そして私が決めたことで変われば全部私が責任とるから、それは安心してやってくれというふうにしております。

○議長（村上 正広君）6番、大西保議員。

○議員（6番 大西 保君）私自身も民間でいろいろ経験、ホウレンソウでやってきました。

もう一つ、今、総合戦略でもPDCAをやりなさい、それからKPI値やりなさい、数値目標というよく言葉が出てます。こういった道の駅にもこうやって具体的に数字も出ます。やっぱり数字が出ると、それに対して目標もはっきりするわけですが、町長はよく御存じですけど、OJTとOFF-JTということをよく言います。OJTとは、オン・ザ・ジョブ・トレーニングで、やっぱり仕事をやりながら厳しく指導していく、心を持って指導していくということです。OFF-JTはあくまで研修であるとかそういうことですけども、私は、このPDCAのCAをずっと2年間議員になってから口酸っぱく言うておりますけども、PDCAの何か1人でも2人でも公的な機関に研修に行かれないんじやないかなと私は個人的に思ってるんですけども、私が先生になってもいいんですけども、そういったことに何か研修に行かれて本当にPDCAをやっていたきたいと。管理業務は全部一緒なんです、PDCAなんです。その辺は町長、どうでしょう、PDCAの研修、いろんな研修あると思います、公立のものもあるので、それについてはどうでしょうか。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）大西議員が先生になっていただければ喜ぶというふうに思いますので、そういう機会も設けたいと思いますが、私は、最近ずっと毎年10万円という職員の旅費、これ監査委員さんは御存じかもしれませんが、旅費を組んでおります。なかなか職員が研修に行っただけじゃありません。こないだも実は五ヶ瀬町という宮崎県の町から福祉保健課と町民課の方が来られました。その前には沖縄県のほうからも来られました。やっぱり横の連絡を持ちながら仲間意識を持って、自分の課の問題ではなくても共通の意識を持つということが今少し欠けとるというふうに思いますので、特に新年度からはそういうふうなことも含めて、PDCAも含めてでありますけども、当然今、滋賀県とかああい研修所にも行かせておりますけども、そういう研修だけではなくて、やっぱり現場の他の自治体を見ながら研修をするということもぜひ進めてまいりたいというふうに思っております。

○議長（村上 正広君）6番、大西保議員。

○議員（6番 大西 保君）ありがとうございます。職員の皆さんのスキルアップいんですか、お互いですよ、皆さんお互いにスキルアップしていただいて、自分たちがスキルアップすることによって町民のためにできる仕事がふえるということを念頭にスキルアップしていただきたい、研修していただきたいなと思っております。

次に、CO₂の件です。また大西はCO₂にかくなるんですが、実は農林水産大臣賞を受賞されて、私は新聞の切り抜きもきょう持ってきております。このCO₂につきましたは、私、平成27年9月に一般質問したときに300トンという回答をいただきました。その後、昨年11月の林業まつりのときに150トンということで今回140トン、それは別に問題です。ただ、まず半分だったということに大変驚いております。この辺については、担当課長の方、町長にはこれは言いませんけども、何か原因だったのか、半分になった要因は何でしょう、大きな要因。

○議長（村上 正広君）青葉農林課長。

○農林課長（青葉 誠也君）今の300トンが150トンというお話でございますけれども、平成27年の9月にこの数値をお示しをしておるということで、当時の状況下では、各施設、機器が持つ能力を365日フル稼働という数値から、その70%稼働の数値、要するに365日分の70%を試算しております。その結果、全体的な総排出量427トンという数値が出ましたので、それに0.7を掛けております。結果299トン、約

日南町第2回定例29年3月14日

300トンということでも当時の試算値といたしたということでございます。その後、実質的な数値が出てまいりましてその数値をもって計算をいたしましたところ、試算値は150トンぐらいになると、ぐらいといいますか、150トンを見込むということで、当時の数値としては150トンを目算をしていたということでございます。

○議長（村上 正広君）6番、大西保議員。

○議員（6番 大西 保君）150トン、140トン、別にそれはいいんです。大きな間違いがあるんですね。何かといいますと、係数なんです、掛け算なんです。CO₂・；排出で、中国電力は今御存じのように原子力発電はとまっています。火力発電にどんどんなっています。そうすると係数が変わるわけですよ。過去のデータで計算されて数値を出されたというのが一番大きい、0.5と0.7は違うんです。これは1.4倍違います。そういうことは御存じでなかったのでしょうか。

○議長（村上 正広君）青葉農林課長。

○農林課長（青葉 誠也君）電気事業者別のCO₂・；排出係数というのがあるということ、その数値につきましては、暫時という言葉は失礼ですけど、確認をしながら計算式のほうは数値を活用してやっております。

○議長（村上 正広君）6番、大西保議員。

○議員（6番 大西 保君）それ以上はもう言いませんが、当初300トンと出されたときの電気代見込み、年間700万円だったんですよ、70%稼働で700万。今予測では240万円で3割です。ガスに至っては年間840万円で、それが今現在見込みでは40万円、5%です。ただ、この資料でいいところは、建物別で計算された、これはすばらしいことです。電気代はこうでしたけども、この試算はA棟、B棟、C棟ということできっちり設備の計算をされたんです。本当に環境活動とかCO₂・；の計算のときは、ここなんです、もとは。後からメーターをつけないかんということにならないよう、それは農林課も企画課も住民課も入ったら答えが出るわけですね。住民課がもし見た場合に、建物ごとにやらなだめですよと、これしないと環境活動できませんよと。

表向きはCO₂・；ゼロの道の駅とされてるけど、中身を見たらこうですねでは寂しい思いをしました。だから私は口酸っぱくCO₂・；CO₂・；と言っておるわけで、自信を持ってCO₂・；の排出ゼロの道の駅、実質ゼロということですから出てないわけじゃないんですけども、ゼロなんです、寄附しますから。ただ、新聞にもちゃんと書いてあるんですね。カーボンオフセットとは、CO₂・；などの温室効果ガス排出量のうち、削減努力をした上でどうしても削減できない量を他の場所での吸収量、削減量を活用して埋め合わせる、これがオフセットなんですね。ですから道の駅ではいろんな削減活動をされてると思うんですが、それを100%寄附しようと。その量が今回見込みで140トンになりました。それはそれとします。

そこで、せっかくなんで、私も2年前に議員になってから環境のことばかり言うんですが、ここで町の執行部の皆さんがずらっと並んでおられます。こういうことをしたら議長に怒られるかもわかりませんが、環境家計簿を見られた方はおられるのでしょうか、日南町ホームページの中で環境家計簿を見られた方はおられるのでしょうか、見られた方は手を挙げてください。見ている人。

○議長（村上 正広君）1人ほどですね。

6番、大西保議員。

○議員（6番 大西 保君）平成22年が第1期計画、削減の環境第1期計画、これが平成29年度に終わるんですよ。前期、後期10年間、その中で環境家計簿が出てました。環境家計簿は、現在、そのとき調べましたら、23年度が10人、24年度、9人、この19名の方だけです。ただ、この方が継続してるかどうかわかりません。もしお手元にパソコンがあれば日南町のホームページをあけていただいて、環境衛生のそこをあけていただいたら出てきます。そしたら環境家計簿というところが出てきます。環境家計簿はどういうことかといいますと、そこに、電気代、領収が来ます、金額を入れます、ガス代入れます、灯油、ガソリン、ざあっと入れます。そしたら全部CO₂・；が出るわけです。それで実は、驚いたんですが、これのホームページを見ますと、きのう更新されました、2012年のたしか3月にされてきのう更新されました。そこには、きっちりまた新しい係数が入ってると思うんです。このCO₂・；の計算をされた方に当初聞きました。環境家計簿を見たかと、知らない。住民課長に聞きに行ってくださいと私、言いました。そういうことを知らない。本当に庁舎内でわかってるかって、せっかくプロがおるのに、こちらで一生懸命計算して、すごい資料です、これ。私、もらいました。そこまで資料を出さなくてもいいです

ないというて私、言ったんですけれども、いや、私はここまでやりますというてやられましたけども、結果を見たいんですけども、数字です。

これを生かしていただきたいんですよ。それで自信を持ってCO2・ゼロの道の駅だということも言っています。それから環境管理活動、最低でもいいです、最低と言ったらいけません。リサイクル、それから裏で焼いてる廃棄物、こういったものを減量化、ゼロに持っていき、ポストに入れてますよと、本当にこうやってますよ、それで皆さんで持っていて帰ってくださいますよ、それから分別もして道の駅もそういう環境活動の教育をしていただきたい、従業員の皆さんに。というのは、お客さんがどういう質問をするかわからないので、どこでどうやってるんだということになりますので、ちょっと私でも私、協力しますし、言っていたら、いい道の駅になっていただきたいので、よろしくお願ひします。

じゃあ、最後に、体育館のことにつきまして質問させてください。

昭和43年ですけれども、48年、49年、約50年たった体育館ですが、3回も会合を開かれていろんな方とも話されています。いろんな要望なりやっていかなければならないんですけども、私は、採用されなくてもいいんですけども、ちょっと提案したいなと思っております。そして、どういうことかといいますと、やはり日南町は林業の町であり、町長が今FSCで何とか東京オリックに木材を使ってという話もございます。すぐさま採用されるとはいいんですけども、この波に乗って日南町の木材を使った新築体育館、ちらっと聞くと1.5倍かかると言われましたけども、ある方が、私は、林業の町にふさわしい体育館にすべきだと思っております。

1つの例を言います、近くで。出雲市で昔、岩國哲人さんが市長のときに、私、あのとテレビ見ておりました。30年か25年ぐらい前、私が市長の間は全て出雲材を使って建てたということ、出雲ドームをつくられました。小学校、中学校の改築も全て木材というところで全国的に発信されました。私は、日南町でせつかく新築体育館をつくるならば広告塔にならんかなと、新築体育館が。

1つの事例は、オロチの新工場があります。あそこの高さ、実はきのう図面を見に行きました。何とかならんかなと思っただけで、設計図もわざわざ見せていただいたんですけども、鉄筋でなくとも、私の案ですけども、鉄筋だったらこんな太うにせないかんけれども、鉄筋をちょっと小さくしてでも、安く上げるために、その回りに日南町の木材を上手に使って知恵を出していただい、何とかできんかなと。要するに設計者も、もう当たり前の設計をするんじゃないし、日南の木材を生かした設計をお互い知恵を出しましょうというように強く思うんですけども、事例を言いますと、例えば、全て7億円で計画されてます。それが1.5倍かかるとなると10億5,000万になります。例えばの話ですよ、それを知恵を出して7億が6億、5億になって、その1.5倍は7.5億なんで、何とか知恵を出して木材をどんどん使えるような、そういう構想。そうすれば、日南町ではこのような建物で耐震も十分あるよというようなことのアピールにならないかなと思っております。そういう提案をしたいんですけども、執行部の答弁をお願いします。

○議長(村上正広君) 増原町長。

○町長(増原聡君) 防災体育館といいましても、決して火災というふうなことの想定だけをしていられるわけではありませぬので、水害とか風水害というふうなことや地震というふうなことを考えてますので、余り例えば不燃でないといかないというあれはないというふうには思いません。それから木造で1.5倍かかるといふふうにおっしゃいましたけども、オロチ等に言わせると、今非常に設計の業界も伸びてきておると。決して木造だから1.5倍かかるといふことではなくて、鉄骨でも今御承知のとおり東京オリパラで非常に高騰しておりますので、そういうふうなことを考えると、設計屋さんによってはできるんじゃないかと。もしもそういふ日南町が木造で建てるのなら、例えばプロポーザル等でもそういうオーダーをして建てる方法もあるだろうというふうにおっしゃってます。私もともしも、いろんな見地からそのようなことが本当に可能であれば、やはり日南町は森林の町でありますので、そのようなことのほうが望ましいかなというふうに思っておりますけども、その辺をこれから調査しながら、方法とすれば、そういうふうなことも可能性の中の視野に入れて検討してみたいというふうに思っております。

○議長(村上正広君) 6番、大西保議員。

○議員(6番 大西保君) ありがとうございます。

実は、やっぱり今バイオマスの方も検討されてます。いろんな角度でやっぱり森林という、木ということ、私もこちらに来てもう35年になるんですけども、物すごい印象に残っ

日南町第2回定例29年3月14日

ておるのは、30年前ぐらい前に元高橋町長さんが、これで植林は終わったと、これから100年、日南町はこれで飯を食っていけるようなことが私の頭の中にずっと残っており、それはその後、いろんな事情もあってこういうことになっておりますけども、やはりずっと林業で見れば、山にいっぱい木があるので、これを活用し、何かこういう起爆剤に体育館がなければなと思っておりましたので、少しでも参考になればなということで、よろしくお願ひしたいと思ひます。もしよかったですら教育長の、指名したらいいませんが、またよろしくお願ひします。どうぞお願ひします。

○議長(村上 正広君)丸山教育長。

○教育長(丸山 悟君)貴重な御意見ありがとうございました。これまでもいろいろな話を聞いておりました、日南町の木でできないかなということの検討委員会でも話が出ております。ただ、費用、先ほど言われたところの町民の費用もありますので、その部分等々を考慮してこういう予算組みをしております。本当に今後検討していきたいと思ひますので、よろしくお願ひします。ありがとうございました。

○議長(村上 正広君)6番、大西保議員。

○議員(6番 大西 保君)じゃあ、最後のスケジュールです。30年度末ということ、ですから具体的には31年3月までということになるんですが、大きく工程表ということですか、出されて、やっぱりずれていく場合はなぜかということをやちゃんと明確にしておかないと、もう聞くたびにずれていきます。ほかの事例を言うてはいけませんけども、生山の住宅につきましても、昨年9月が12月になり4月になりということ、納期管理はどうなるとかなという感じがしました。体育館だけはスケジュール管理していただいて、よろしくお願ひしたいと思ひます。決意の一端を述べていただきたいんですが、よろしくお願ひします。

○議長(村上 正広君)安達教育次長。

○教育次長(安達 才智君)ありがとうございます。来年度の予算を立てるに当たって、設計の入札、それから設計が終わった後の工事業者の入札であるとか議会での承認であるとか、そういったこともきちんと視野に入れてスケジュール表をつくっていききたいと思ひます。ありがとうございました。

○議長(村上 正広君)よろしいですか。

関連質問がありますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長(村上 正広君)以上で大西保議員の一般質問を終わります。

○議長(村上 正広君)ここで暫時休憩をいたしたいと思ひます。再開は2時15分といたします。

午後2時02分休憩

午後2時15分再開

○議長(村上 正広君)休憩前に引き続き会議を再開いたします。

引き続き一般質問を行います。

タブレット5ページ、1番、足羽覚議員。

○議員(1番 足羽 覚君)団塊の世代が75歳以上となる2025年度は介護職員が全国で249万人必要と見込まれ、100万人もの人手不足が見込まれています。日南町においては、平成15年をピークに高齢者人口が減少に転じていますが、年々、介護・医療関係の人手不足は深刻度を増しています。私は、全国的に発生しているこの問題に対し、早急に取り組んでいかないと日南町で安心して老後が暮らせないとと思ひます。今回、日南福祉会についてと日南町シルバー人材センターについて一般質問をさせていただきます。

まず、日南福祉会について。

近年、日南福祉会介護職員の離職が目立ちます。平成27年度で15人の離職、平成28年度は11月末現在で4人でしたが、3月末で最終的に何人離職されますか。また、そのうち定年退職者は何人ですか。

②です。平成27年度にデイサービスおおくさ荘の休止、そしてグループホームあさひの郷の1ユニット9床休止など、人員不足による介護施設利用の縮小化が行われている。平成29年度もさらに介護施設利用が縮小されると聞いていますが、今後の予定を伺います。

③です。介護福祉人材育成奨学金制度の活用状況と人材確保のための経営努力をどのよ

うに取り組んでおられるか、伺います。

2番目、日南町シルバー人材センターについて。

①国は、一億総活躍社会の実現に向け取り組んでおられますが、町内では、特に介護・医療関係、農林業関係の後継者問題など人手不足で問題視されています。そこで、高齢者の生きがいづくりと人手不足解消を目的にシルバー人材センターの利活用がどのくらいできているか、伺います。

②昨年4月、厚生労働省は、臨時的、短期的、軽易という業務範囲限定の要件を緩和し、市町村ごとに指定する業種等において派遣、職業紹介に限り現行の週20時間から週40時間まで業務可能と法改正を行い、施行されました。町内には元気な高齢者が多数おられますが、地域の実情に応じた高齢者の社会参加を促すことをどのように考えておられるか、伺います。

以上で最初の質問を終わります。

○議長（村上 正広君）執行部の答弁を求めます。

増原町長。

○町長（増原 聡君）足羽覚議員の御質問にお答えします。

まず、福祉会の件でありますけども、平成28年度中の退職者は、いわゆる期限つきの雇用者を含め14人の見込みであります。うち定年退職者は1名であります。補充につきましても、先ほど久代議員の質問にありましたように、5名ということで、職員の不足が継続している状況であります。

そして今後の介護施設の利用の予定については、できる限りサービス提供に支障がないように工夫して対応していただきたいというふうに思っておりますが、特別養護老人ホームあかねの郷については、いわゆる入居希望者や短期入所者を希望される方がおられるわけですが、国の法改正によって、これまで入られていた方が入れないという状況がありますので、受け入れを若干減少しておるという状況であります。グループホームのあさひの郷については、現在、1ユニット9名が入居されておりますが、入居者御家族の御了解が得られる場合があれば、時間を縮小するというふうな予定であります。虹の郷のデイサービスにつきましても、これも29年3月でデイサービスの事業を休止する予定というふうに聞いております。非常に厳しい状態だということでもあります。

人材奨学金制度の活用状況と人材確保の取り組みでありますけども、平成27年度に創設した介護福祉人材育成奨学金制度があります。平成27年度には3名、平成28年度には3名、実5名、延べ6名の利用がありました。内訳は、町内出身者が1名、県内出身者が2名、県外出身者が2名であります。このうち2人は既に介護福祉士の資格を取得され、平成28年4月から日南町福祉会で勤務をしておられます。

町では、介護福祉人材育成奨学金をさらにPRし、職員確保の支援をしていきたいというふうに思っております。しかし、先ほども述べましたように、町内出身者の利用者が非常に少ないということは、将来的にはまた町外出身者の方は、言葉としては悪いですが、やはりできる限り町内出身者の利用者をふやすという努力が必要だというふうに思っております。日南福祉会においては、求人継続、就職フェア等、先ほど久代議員に説明をいたしましたように、職員確保に努めてまいりたいというふうに思っております。また、日南福祉会に負担を求めている施設使用料相当についても、先ほどお話をしたとおりでございます。

次に、日南町シルバー人材センターについての利活用の状況でありますけども、シルバー人材センターの会員は平成28年度64名で、前年度と比べ8人増加しております。過去3年を見ても少しずつ増加傾向にあるということで、非常に喜んでおります。

作業内容としては、29年の1月末現在でありますけど、28年におきましては除草や草刈り、墓地の清掃が282件、植木の剪定、雪囲いや畑仕事が54件、これは主に役場等や買い物代行でありますけど、宿日直、室内清掃、買い物代行が46件であります。夏場につきましても、畦畔の草刈り依頼が多く、逆に引き受け手が見つからないほど忙しくなっております。シルバー人材センターの活動は、医療や介護スタッフの人手不足を補うための人材提供という考え方は持っておりません。しかし、何か補助的に応援することがあれば、そのような視点で検討していくことは必要かと考えております。

続いて、地域の実情に応じた高齢者の社会参加を促すことについては、元気で意欲のある高齢者の活躍の場として、シルバー人材センターがあると考えております。シルバー人材センターは、自主団体組織で働くことを通して生きがいを得るとともに、地域社会の活性化に貢献する団体であります。現在、広報紙「まごころ」やチラシ、リーフレット等で会員の募集をしております。会員の平均年齢が年々高くなってきており、60歳代の若手

日南町第2回定例29年3月14日

会員のさらなる入会の勧誘に取り組む必要があると感じております。しかし、その年代は、先ほどありましたように、地域の中の役職でも農林業など仕事の面でも現役で中心的な存在であります。また、最近では60代前半の皆さんを中心に再任用などの常勤的雇用をされる事業もふえてきております。一方、シルバー人材センターの仕事に対する需要は十分あると思えますので、経験や技術を生かしていただき、ぜひ地域社会に対して貢献していただくことを期待しております。

以上、足羽覚議員の御質問に対する答弁とさせていただきます。

○議長（村上正広君）再質問がありますか。

1番、足羽覚議員。

○議員（1番 足羽 覚君）まず、平成27年にあかねの郷、かすみ荘、おおくさ荘の3拠点の事業運営を開始されて12年になるわけですが、そのころは福祉の町にするんだということ、非常に盛り上がっていたと思います。求人の方も多かったと思えます。現在は、大変必要な職種であるにもかかわらず、介護職の希望が非常に少ないという状況になっております。平成27年度、28年、合わせて今回29名の職員さんが離職された、非常に多い数が退職されるわけですが、まずその理由ですね、重立った理由をお聞かせください。

○議長（村上正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）離職の理由というのは、給与等ではないというふうに思っております。先ほど久代議員のときにもお答えしましたように、ある程度何年か過ぎられますと、結婚であったり、また家族の方が高齢になってくるということになってくると、特に日南町の場合、約4割の方が町外の方でありますので、そういうふうなところの自分の親元の近いところに少々例えば給料が安くても仕事を見つけて自宅から通いたいとか、婚姻を機に町外に出るといふようなケースも多うございます。そういうふうなケースが主ではないかなと。

それからもう一つは、根本的にあるのは、福祉の仕事というのが非常にきついで、また給料に対しても歩合がマッチングがしてないという部分があるので、転職を考えられるケースもあるのではないかとこのように思っております。

○議長（村上正広君）1番、足羽覚議員。

○議員（1番 足羽 覚君）今回リストラをしたというわけでもなくここまで減少するということは、企業にとっては非常に大きな問題だろうと思えます。例えば皆さんが退職するから私もついつう退職してしまうとか、そういうような何か雰囲気職場内で漂っているのではないのでしょうか。

○議長（村上正広君）中村副町長。

○副町長（中村 英明君）福祉会等からの聞き取りですが、確かに27年度末の退職者も26人ぐらいおられますが、定年退職の年齢層もかなり多くて8人ぐらいおられます、27年度末ですが。ただ、再雇用という今ある方もあっておりまして、8人のうち6人は再雇用されてます。それ以外の定年の年齢以外の方では、いろいろな個人の都合、家庭の都合といましようか、そういったことも大きな要因の一つであるというふうに聞いておりますので、連鎖反応というのはあるのかわかりませんが、基本的にはないというふうに理解をしております。

○議長（村上正広君）1番、足羽覚議員。

○議員（1番 足羽 覚君）今回退職者は1名ということですが、大体には2名ですか、定年の方は。1名は再雇用ということなんでしょうか。

○議長（村上正広君）梅林福祉保健課長。

○福祉保健課長（梅林 千恵君）そのように聞いております。

○議長（村上正広君）1番、足羽覚議員。

○議員（1番 足羽 覚君）ちょっといつの経済福祉常任委員会だったか忘れたんですが、米子市とか新見市から近年採用者がふえていると伺っております。先ほど町長の答弁にもありましたけども、地元の採用が非常に少ないということですが、その米子とか新見市からの採用が多いという理由があれば教えていただきたいと思えます。

○議長（村上正広君）中村副町長。

○副町長（中村 英明君）新見市とか、新規採用の学校がそこにあると、いわゆる実習で日南福祉会のほうに来られて、気に入られて採用になるというケースが多いというふうに思っておりますし、米子につきましても御承知のとおり介護の専門学校がありますので、そういった専門学校系列というところの動きの採用というのが多いというふうに思っております。今の人材育成制度につきましても、一応西部管内とか近隣のところに紹介も

日南町第2回定例29年3月14日

させていただいておりますけども、どんどんやっぱり輪を広げていって情報提供していきながら、そういった方の採用につなげていくことができればというふうな目標を持っておられるところでもあります。

○議長（村上 正広君）1番、足羽覚議員。

○議員（1番 足羽 覚君）先ほど実習の受け入れということですが、例えば新見市でしたら新見短大とか多分受け入れてるんじゃないかなと思いますけども、町内近辺でしたら、あと米子のYMCA等はあるんですが、ほかにもそういった実習の受け入れ等はされておられるのでしょうか。

○議長（村上 正広君）中村副町長。

○副町長（中村 英明君）最近どうかわかりませんが、島根県のほうの広瀬等の専門学校がありますので、以前についてはそういう学校からの受け入れをした経過はあります。ただ、最近はちょっとどうかわかりませんが、基本的には学校側の生徒さんの数にも応じてだと思っておりますけども、ある程度割り振りがあろうというふうに思っておりますので、その中で、従前から受け入れにつきましては、学校からの受け入れ希望がありましたらその対応をしていくという方針の中で動いておりますので、基本的にはそういったところを有効に使う採用につなげていきたいというふうに思っております。

○議長（村上 正広君）1番、足羽覚議員。

○議員（1番 足羽 覚君）あと、職場内で特に離職を減らすために、例えば相談窓口等を開設して前もって相談に乗るとか、そういうようなことを福祉会のほうでされているのか、もしくは福祉保健課のほうでそういった対応ができるのか、教えていただきたいと思っております。

○議長（村上 正広君）中村副町長。

○副町長（中村 英明君）福祉会との話の中で聞いている部分ですけども、基本的には給与体系あたりを見直したいという考え方をお持ちでありますし、それと業務体制っていいでしょうか、そういったところの見直しができるならしたいというような再構築をされてるというふうに思っております。また、職員個々の人材育成というようなところを含めてやっておられたり、あるいは個人面談も役員の方が職員個々に面談をしながら、そういった仕事に対する不安を少しでもなくしたりとか、あるいは意欲、モチベーションを高めていくにはどうしたらいいかというような話も含めて面談されているというふうにお聞きしておりますので、さらにサービスが質的には落ちることはないというふうに思っております。

○議長（村上 正広君）1番、足羽覚議員。

○議員（1番 足羽 覚君）町外で40%の職員さんがおられるということですが、特に若手の方ですね、町外から来られた方に離職が多いというのも聞いておられますし、あと、リーダークラスの方ですね、非常に仕事の厳しくなると。あと、配置変換されたときも、仕事のつらいものがあるというようなことも一部の方から聞いておられてますけども、その辺の把握をやっぱりしっかりされて離職につながらないようにしていきたいなと思っておりますけども、どうでしょうか。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）一応、日南福祉会は100%日南町が出資をしておりますけども、やはり一つの会社でありますので、余りそこで町のほうが口出しをするというふうなことよりも、町のほうとしては側面支援というふうなことやっていきたいというふうに思っております。人事等に町がかかわることになると、非常にやる気をそぐというふうに私は認識をしております。

○議長（村上 正広君）1番、足羽覚議員。

○議員（1番 足羽 覚君）福祉保健課のほうで、そういった相談に乗っていただけるような体制をまずちょっとつくっていただきたいなと私は思うわけですが、なかなか本人も実際には相談には行かれない可能性はありますけども、難しいでしょうかね。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）難しいと思います。やはり職場には職場の中でのお話というのを他のところで話をすることは、非常に本人にとってもストレスになりますし、それがもし職場に耳に入ったときには、本来的には内部通報制度というふうなことがあって、そういうふうな犯罪の場合はいいわけですけども、人間関係の中で、私はあの人が嫌いだからかえってほしいなどということになると、本当に職場内がごちゃごちゃしてくるというふうに思いますので、それはどこの職場であろうと大なり小なり起きることだというふう

に思っておりますので、やはりそれはしっかり福祉会の中で処理をしていただきたいというふうに思っております。

○議長（村上 正広君）1番、足羽覚議員。

○議員（1番 足羽 覚君）あと、町外から来られてる職員さんなんですけども、なるべく町内にとどめてほしいという思いがあるわけです。例えば若手職員さんを集めて他の職場との交流会を開いたり、何かそういった、なかなか福祉会だけで固まっても次のステップといいますか、結婚に結びつかないとかあると思うんですよ。そういった何か楽しいことも職場の中でできたらいいなというふうに思っておりますが、今回といいますか、婚活事業等はないわけではありますけども、職場内でちょっと合コンなり、そういった活動もしてみてもどうでしょうか。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）いい御意見だというふうに思っております。よく今、職域バレーというのがありまして、これで結構いろいろな出会いが生まれたりしております。じゃあ、そこでその後、誰もがどっかで集まってカラオケでもできたらいいなというふうな声もあるわけではありますけども、それなりに皆さんで動かれてカラオケに行かれたりしてるところがあります。

ただ、1つの大きな問題としては、日南町で今、特に若い方々、子育て1人ぐらいいとか御夫婦で住むようなやはり場所が少ないと、住める場所が少ない。私どもとすれば、生山のほうに家を建てただけであれば一番いいわけですけども、そこまでいくまでのちょっとした住居、これは病院でもよく言われていることですけども、ある程度スタッフをそろえるためには、ちょっとしょうやかなアパート的なものというのが、やはり一つの魅力にはなっておるといえるのは事実だろうというふうに認識はしております。

○議長（村上 正広君）1番、足羽覚議員。

○議員（1番 足羽 覚君）次に、介護施設利用の縮小化ですね、28年、29年度にかけて縮小化になるわけですけども、今回おおくさ荘も、あかねの郷はもう撤退するというような感じになろうかと思っておりますが、例えばグループホームですね、虹の郷とあさひの郷があるわけですけども、この辺も今現在36床あるわけですが、何かいずれは18床に減るといふようなこともちらっと聞いております。例えば、ここは認知症を受け入れるグループホームでありますけども、年々、認知症というのはやっぱりふえてきていると思っております。その辺の受け入れ体制が大丈夫かなと心配するわけではありますけども、その辺はどうでしょうか。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）先ほど近藤議員さんの中にも、運転される方の中で認知症というふうな話も出てきました。認知症というの、医薬品の開発もあろうかというふうに思っておりますけど、現段階ではまだふえている状況であります。先ほど申しますように、施設としてのニーズがないわけではないわけで、ただ、その施設を運営するという事になってくると、その施設に、例えばグループホームを1ユニットで仮に2人入られていても、そのユニットには9人分のスタッフを要しないといけないということがあるわけですね。そうすると、どうしても今この話で縮小をかけていかなないと経営的にも厳しいし、人材的にも他のところで足りないところがあるので、そういうふうなことであります。ですから、鶏が先か卵が先かという話はあるわけですけども、やはり何としても、いろいろな負担、使用料や起債の分は、置いとく言うのはおかしいわけですが、それも考えながら、しっかりとにかくスタッフを確保して日南町の福祉・医療体制を確保するということが大きな命題だというふうに認識をしております。

○議長（村上 正広君）1番、足羽覚議員。

○議員（1番 足羽 覚君）昨年、平成28年の11月末現在ではありますけども、待機者ですね、こちらのほうがあかねの郷は26名、グループホームでは12名という待機者もおられます。ただ、保留者もかなりの数がおられるわけですけども、こういった待機者がおられるのに、どんどんではないですが、そういった施設を減らしていくというのはやっぱり問題が今以上に発生してくるんじゃないかなと危惧するわけではありますけども、その辺はどうでしょうか。

○議長（村上 正広君）中村副町長。

○副町長（中村 英明君）それを解決するには、もう人しかないの、とにかく目の前の課題というのは、人材を確保していくというところに力点を置いてこれからも頑張っていきたいと思っております。

○議長（村上 正広君）1番、足羽覚議員。

日南町第2回定例29年3月14日

○議員（1番 足羽 覚君）次、人材確保についてなんですが、今、町内であかね塾というのがありますが、ここでは、介護職員初任者研修、昔の名前で言うとホームヘルパー2級に相当するわけなんですけども、そういった資格が取得できるようです。今現在こういった研修をされていると思いますが、その取得状況を教えていただきたいなと思います。

○議長（村上 正広君）梅林福祉保健課長。

○福祉保健課長（梅林 千恵君）初任者研修を実施しておられるということは把握しております。ちょっと今、手持ちの資料に受講者がございませんので、また後ほど報告させていただきます。

○議長（村上 正広君）1番、足羽覚議員。

○議員（1番 足羽 覚君）ちょっと私のほうでは少ないというのは聞いております。介護職員初任者研修の取得をふやして、こういった介護関係の職員不足がカバーできないかなと考えますが、そういった初任者研修の資格を持っておられる方では今の介護職の仕事ができないものなんでしょうか、まともなと言ったらあれですけども、補助的なことしかできないものなんでしょうか。

○議長（村上 正広君）中村副町長。

○副町長（中村 英明君）基本的には資格がなくてもできるようになっております。ただし、当然御承知のとおり、有資格者としてヘルパー2級だとか、あるいは介護福祉士だとか、そういった専門的な資格というところのことがありますので、できればそういう形で勉強していただいた方を多くしていく、あるいは採用時には無資格だけれども、一定の経歴年数を所持して試験を受けて取得されるという方もありますので、そういった体制づくりの中での資質向上を福祉会の中では目指しておられるというふうに理解しております。

○議長（村上 正広君）1番、足羽覚議員。

○議員（1番 足羽 覚君）日野高校でもそういった初任者研修の資格が取得できるんですけども、今、日野高校では、介護・健康系列の授業のコースを受ければ取得ができると。週8時間の授業があったりするそうです。その介護職員の初任者研修ですね、ことしというか、去年なんですけど、10名取得があったそうです。そのうち2名が日南町の出身者と聞いております。そういった学生に介護福祉の人材育成の奨学金制度、この辺をぜひとも利用していただけて町内に戻っていただきたいなというふうに思うわけでありまして、その辺のアピールとか、先生も言われてるそうなんですけども、もっともっと強くしてもらえたらなと思うんですが、そういった営業活動的なことはされておられるんでしょうか。

○議長（村上 正広君）梅林福祉保健課長。

○福祉保健課長（梅林 千恵君）西部管内の高等学校につきましては、訪問しまして制度の説明とか申込書等も持っていきまして依頼をしております。また、進路指導の先生とも面談をしております。ぜひ勧めていただきたいということをお願いをしております。制度としては大変有利な制度であるので、ぜひ生徒さんには知らせたいということでお話をいただいておりますので、そういった働きかけはしていただいていると思っております。今後もさらに続けていきたいと考えております。

○議長（村上 正広君）1番、足羽覚議員。

○議員（1番 足羽 覚君）先生のほうも、介護士は非常に人員不足のために求人も多く、食いつばぐれがないよというようなことを生徒たちには言っておられるんですけども、なかなか介護職というイメージが余りよくないなという、そのイメージアップをやっぱりどんどん図っていかないと生徒たちもなかなか食いついていかないのかなというふうに思うわけなんですけども、そういったイメージアップ戦略をこれからどしどししていただけたらなと思うわけでありまして、どうでしょうか。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）昨年も介護職で日南町の出身の方に、ぜひとも日南町に来てほしいということをお勧めしたんですけども、結果的には日野町の日翔会のほうに行かれました。その理由を聞くと、やっぱり自分の知った人の介護をするというのは、なかなかちょっと抵抗があると。知らない人だったらいいけども、お隣や近くのおじいちゃん、何かちゃん、あんたが見るだかなんて言われると、ちょっといろいろ思いがよぎってきて、地元よりも他の知らないこの方を見たほうが気が楽だという例もありました。それは一つの例だというふうに思います。

確かにいろんな介護職のイメージアップがあって、例えばロボットを入れるとか、いわ

日南町第2回定例29年3月14日

ゆるアシストロボットですね、パワーの、それからしゃべるソフトバンクのわけのわからぬロボットを入れるとか、そういうふうなことでイメージアップにつながるなら、とにかく何でもして確保をしないともういけんという状態に来てるわけですので、もうロボットでも何でもいいですか、そういうふうな提案をどんどん福祉会ともやって、とにかく頑張っていたかどうかということ私としては考えていきたいというふうに思っております。

○議長（村上 正広君）1番、足羽覚議員。

○議員（1番 足羽 覚君）それと、介護職員さんの負担を軽減するために、後でもまあ言いますが、シルバー人材センターを活用して、例えば清掃とか洗濯とかシーツ交換とか配膳とか、専門じゃなくてもできるような仕事があるんじゃないかなと思うんですけども、そういったところにシルバー人材センターの派遣というような格好を活用して少しでも介護職員さんの仕事量を減らすというようなことはできないものではないでしょうか。

○議長（村上 正広君）中村副町長。

○副町長（中村 英明君）おっしゃられるように、仕事の業務内容の一部というところでききますと、それはできる内容があるのかもしれませんが、基本的には会社の運営の皆さんが決められることであらうかと思いますが、ただ、シルバー自体の業務内容として、例えば在宅の方の会話の相手になるとか、そういった多少軽易なことの中で業務を行うという内容も明記されておられますので、そういった形でのシルバーの皆さんの活動というのは地域の中でできるのではないのかなというふうには思っております。

○議長（村上 正広君）1番、足羽覚議員。

○議員（1番 足羽 覚君）その辺は、あかねの郷といいますか、日南福祉会でもボランティアを募集されたりして、高齢者、患者さんというか、利用者の方とそういったコミュニケーションをされたりしてんじゃないかなと思いますけども、次、地域おこし協力隊ですけど、基本的に農林業関係じゃないかなと思うんですけども、研修を受けて介護関係の仕事ができないものかと思っておりますけども、そういったことは無理でしょうか。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）それは、もう地域おこし協力隊ではなくて、福祉の仕事に従事をしていただくという方だというふうに思います。全くそれは許可が多分出ないと思いますし、それからもう一つ大事なことは、福祉の現場も医療の現場もチームワークなんです。誰かが入ってきて何かをしてくれればそれが済むということではなくて、配膳なら配膳でも、この方はこういうふうな配膳をしないといけない、箸は使えないからスプーンでないとけないとか、きょうは固形物が入ってるからそのものだけは外して違うものを置こうとか、そういうふうにはやはりちゃんとしたチームワークができてないと、私は医療なり福祉の現場というのは成り立たないというふうには思っております。安易に福祉や医療の現場にそういう他人とか、他人とは言わないですが、ボランティアなり、その日だけの方を例えば食事の配膳等に置くと本当に医療事故、福祉事故のもとだろうというふうには思いますので、あんまり安易に、周辺の整備とか、そういうふうなところは今もやっていただいておりますので、大変ありがたいと思っておりますけども、その程度でやはり占めるべきだというふうには思っております。

○議長（村上 正広君）1番、足羽覚議員。

○議員（1番 足羽 覚君）地域おこし協力隊なんですけども、地域包括ケアシステムがあるわけですが、そちらのほうに配属して、今後の地域のあり方を一緒に考えていくとかいうようなそういった取り組みですよね。直接介護するというわけじゃなくて、新たな町村での介護のあり方というか、そういった、ちょっと意味が伝わらないでしょうか、そういう方向で協力隊を使えないものかなと思っておりますけども、どうでしょうか。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）地域おこし協力隊というのは、その場に定住したいという、そのまちに定住するというのが一つの目的なんです。今言われるように、例えば福祉の知識を持って日南町に定住したいのであれば、初めから福祉施設に入っていた方がいいかはるかに有益なわけですね。傍観者的に例えばああだこうだというふうに先ほど言いますように言うと、やはりチームワークが壊れてまいります。やはり地域おこし協力隊というのは全く福祉とかには当たらないものだというふうには思っておりますので、そういう考えをし出すと、言葉は悪いですけども、誰でもいいじゃないかというふうなことになってしまふと。本当に福祉で頑張ってる方々の意欲をそがないようにぜひとも考えていただきたい。

私は、日南町の福祉会の方々、毎日毎日、本当にどうして日南町の福祉をよくしよう

か、お客様に喜んでいただこうかというふうなことを努力されてるというふうに思いますので、安易に数だけそろえればいいというふうには皆さん方、思われてると思うますし、真剣に日南町の福祉のあり方というのをしっかり考えられておられるというふうにも思っていますので、誰でもいいから何か誰か手伝いに来てくれればいいなというふうなものではないというふうな、そんな生易しい現場では私はないというふうには自身、感じております。

○議長（村上 正広君）1番、足羽覚議員。

○議員（1番 足羽 覚君）じゃあ、もう一つ、以前提案といたしますか、したことがあるんですが、外国人労働者の採用についてでありますけれども、政府のほうでも取り組んでおられるわけですが、非常に状況としては難しいいろいろな問題があります。言葉の問題とか経費がかかり過ぎるとか難しい状況ではありますけれども、今後としては、やはり外国人の雇用というものは必須になってくるんじゃないかなと思うわけでありまして。今、日南福祉会にもお嫁さんに外国から来られた方が2人ほどおられるそうなんですけれども、例えばそなたつてがあれば来てもらって介護の仕事をしてもらうとか、難しいかもしれませんけれども、何らかのやりっぱり手だてを打っていったら外国からでも採用ができるんじゃないかなと思うわけでありまして、どうでしょうか。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）御承知のように、今、株式会社オロチではベトナムの方が、たしか5名だったと思っておりますけれども、働かれておられます。大変真面目でいいというふうには聞いております。役場のほうにも来られて、地元の実家のほうとパソコン通信をされたりして連絡をとっておられる姿をよく見ます。福祉の現場でいいと思いますと、なかなか言葉の問題というのがあろうというふうには思っております。

御承知かどうか知りませんけれども、鳥取県は実はモンゴルに日本人学校というのを設けております。その卒業生というふうな形がそろそろ出てまいりますので、そういう方々が本当にそういうふうな志向をされるのかということもあるというふうには思っております。ただ、モンゴルという田舎のようには思いますが、例えばウランバートルといえど何百万人という都会でして、そういう方々が日南町のようなこの地に来て福祉の仕事を選ぶのか、例えば東京都や横浜のような大都会で福祉の仕事を選ばれるのかというふうなところは、また別な問題だろうというふうには思っております。ただ、鳥取県がそういうふうな学校を持っておりまして、そういうふうなところにも呼びかけて可能性を探ってみることは必要だというふうには認識しております。

○議長（村上 正広君）1番、足羽覚議員。

○議員（1番 足羽 覚君）大変福祉の仕事というのはきついわけでありまして、人間関係がうまくいかないとか給料が安いとか、そういうような不満も少しは聞いております。介護の仕事というのは非常にやりがいのある職種でもあります。重要な仕事でありますので、再度、認識していただいておりますけれども、介護職員の確保に全力をお願いしたいと思います。

続きまして、シルバー人材センターについてなんですけれども、平成28年で64名というこまとで、過去3年間ふえてきて非常にいいなと思っております。ただ、ちょっと資料を見ますと、全体の60%以上に当たるんですが、75歳以上の方が会員になっておられるわけですが、若返りをしていく必要があるんじゃないかなと思っておりますけれども、作業とかには支障といいますか、特に問題はないでしょうか。

○議長（村上 正広君）梅林福祉保健課長。

○福祉保健課長（梅林 千恵君）シルバー人材センターさんに依頼がある仕事の内容は多岐にわたっております。それぞれの会員の皆さんが御自分のできる範囲でということにお願いしております。先ほどの答弁にもありましたように、夏場は草刈りとか草取りとか、そういった希望が多く出されます。そういった場合に、引き受け会員がなかなか手が回らない状況もあるように聞いております。ですので、さらに若い年代の会員さんをふやしていきたいというのは会員の皆様の考えでもありますし、町としてもその点をPRしていきたいと考えております。

○議長（村上 正広君）1番、足羽覚議員。

○議員（1番 足羽 覚君）全国の加入率なんですけれども、ちょっと調べてみたら、男性は2.7%で女性は1%、これは平成26年の統計なんですけれども、なっております。日南町は、ちょっとざくっと計算したんですけれども、男性は1.7%ぐらいで女性は0.7%ぐらいと全国に比べてまだ少ないという状況です。恐らく高齢者の方ですね、農業関係、林業関係に従事されてる方が多いからそういう結果が出てるとは思いま

日南町第2回定例29年3月14日

すけども、例えば口コミでまち協とかそういったところに呼びかけて、高齢者の福祉の増進と就業支援、そういったことを目的として会員数をふやしていただきたいなと思います。

あと、資料をちょっと見たんですけども、専門的、技術的職員さんがゼロということでした。その専門的というのは、看護師さんとか、恐らく介護士さんも含まれるんじゃないかと思うんですけども、この辺は再雇用とかそういうのがあってやっぱりゼロというような結果になってるのでしょうか。

○議長（村上 正広君）梅林福祉保健課長。

○福祉保健課長（梅林 千恵君）専門職といいますと、ちょっとどの資料を見ていただいたかちょっとわかりかねますが、専門職……。

○議員（1番 足羽 覚君）シルバー人材センターの状況についてという資料。

○福祉保健課長（梅林 千恵君）シルバーの会員さんについては、専門職であるかどうかというような募集の仕方とか分類の仕方はしていないと思っております。それで、特に専門職の方につきましては、先ほどおっしゃいましたように、再雇用の対象であられましたりとかいったことで従事しておられる方が多いと思っております。

○議長（村上 正広君）1番、足羽覚議員。

○議員（1番 足羽 覚君）もしもそういった専門的、技術的な方がやっぱりおられましたら、ぜひともシルバー人材センターのほうに登録していただいて何らかのそういった介護、医療の協力をしていただきたいなと思いますけども、その辺のPRの仕方もあるかと思いますが、要するに眠っている人材ですよ、そういうのを掘り起こしていただきたいなと思いますが、どうでしょうか。

○議長（村上 正広君）中村副町長。

○副町長（中村 英明君）センターの会員さんは若干上がり傾向というところがありますけども、10年前ぐらいからいくと、やっぱり少なくなってるという傾向ではないのかなというふうには思っております。基本的にはシルバー人材センターの組織の中でそういうところはもう危惧されておりますし、全域にわたって会員さんおられますので、会員さんをそういった方を含めて呼びかけをされてるというふうにも思っておりますし、今回、社会福祉協議会に入っている関係もありまして冊子あたりにもそういった内容を掲載されながら会員募集をされてるというふうにも思っておりますので、そういう状況でありますので、町が何かをするということではなくて、一定の支援の中で募集に努めていただければというふうにも思っております。

○議長（村上 正広君）1番、足羽覚議員。

○議員（1番 足羽 覚君）ちらっと聞いたわけなんですけども、人材センターの中にもホームヘルパー2級を持っておられる方が1名おられて、訪問介護とか月に2回ぐらい行かれとるそうです。そういった方をもっとふやしていけたらいいなと思います。

次、日南町高齢者世帯軽度生活援助事業のことをちょっとお聞きしたいんですけども、65歳以上のひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯に対して、日南町高齢者世帯軽度生活援助事業で事業費の一部負担がありますけども、例えば民生委員さんとかはこういった事業があるんだよというのを把握されているか、ちょっとお伺いしたいわけなんです。例えば今回でも大雪とか降ったわけなんですけども、民生委員さんのほうに雪かきを頼まれたり、そういったことを聞いております。こういった事業があるというのを民生委員さんがちゃんとわかるとれば、シルバー人材センターのほうに連絡されたりするんじゃないかなと思うんですけども、そのような民生委員さんのほうには徹底されているのでしょうか、お伺いします。

○議長（村上 正広君）梅林福祉保健課長。

○福祉保健課長（梅林 千恵君）先ほどお尋ねのありました日南町高齢者軽度生活援助事業につきましては、民生委員の定例会等でもPRというか、周知をしておりますので、承知していただいていることと思います。ただ、シルバーさんの場合は対応できる範囲というのが限られておまして、庭先のあたりとか、引き受け手があった場合ということで、全てをお受けするわけにいかない場合があります。それでまた民生委員さんの場合は、雪かきを業務のうちとしてやってくださいということをお願いしております。なので、何かがかかっていますか、見かねてといいますか、そういったことで対応されたことはあるかとは思いますが、民生委員さんが必ずそういった方々の雪かきをしなければならないということではございませんので、御承知おきいただきたいと思っております。

○議長（村上 正広君）1番、足羽覚議員。

○議員（1番 足羽 覚君）それと、今回新規事業で、お産された産婦さんに対して産

日南町第2回定例29年3月14日

後の家事の援助をされるといふのがありますけれども、これをシルバー人材センターに業務委託されということでもあります、これも規制がありまして1回2時間まで、1人8時間までということでもありますけれども、その範囲内では全て無料といひますか、助成ができるわけでしょうか。

○議長(村上 正広君) 梅林福祉保健課長。

○福祉保健課長(梅林 千恵君) 制度的にはそのように予定しておりますけれども、委託先につきましては、御意見もいただいておりますので、再度協議して検討したいと思っております。

○議長(村上 正広君) 1番、足羽覚議員。

○議員(1番 足羽 覚君) 次ですけれども、平成27年度から作業委託内容ですが、分類基準が変更になっております。このいただいた資料ですね、変更になっておりますが、例えば地域や企業の要望に応えるような仕事内容を新たに追加したり、そういったことはできるものなんでしょうか。

○議長(村上 正広君) 梅林福祉保健課長。

○福祉保健課長(梅林 千恵君) シルバー人材センターさんの事業につきましては、以前お送りしましたこのチラシのとおりでして、今のところこの内容で継続して行うこととしておりまして、特に変更は考えておられないと思っております。

○議長(村上 正広君) 1番、足羽覚議員。

○議員(1番 足羽 覚君) 昨年の法改正で週20時間から40時間までできると、可能となるといふことになっておりますが、そういった法改正によって仕事の内容も若干変わったか、選択肢ですね、その辺も広がってくるんじゃないかなと思ふわけでもありますけれども、そういった仕事の内容とか仕事量で40時間ぐらいまでできるような、そういった仕組みになっておりますでしょうか。

○議長(村上 正広君) 先ほどの答弁で福祉保健課長のほうから事業の内容については変えられないといふことがあったので、そこら辺のことについての答弁は次の質問に変えていただきたいと思ひますが。

○議員(1番 足羽 覚君) わかりました。じゃあ、変えられないといふことですね。

最後になりますけれども、シルバー人材センターの仕事でありますけれども、単なる外出や体を使う機会だけでなく、仕事を通して高齢者の社会参加や生きがいを支援し、それがひいては医療の削減とか健康寿命を延ばす要因につながっていくと思ひます。寝たきりの高齢者を減らすためにも、このシルバー人材センターの活用を今以上にしていっていただきたいなと思ひます。PPKという言葉がありますが、びんびんころりですね、これを社会にもっともっと普及していきたいなと思ひます。以上で終わります。

○議長(村上 正広君) 答弁は。

○議員(1番 足羽 覚君) じゃあ、お願いします。

○議長(村上 正広君) どなたが答弁を。

増原町長。

○町長(増原 聡君) 日南町の今の人口動態を見ても、一番多いのが80代でございます。その次が90代であります。御承知のとおり、高齢者という言葉は65歳から75歳からというふうな言葉に変えようかというふうな動きがあります。実際からいうと、75歳から80代ぐらいは日南町の本当に農林業も含めた地域の中核でもありますし、商工業の担い手でもあるというふうになっております。

そういう中で、確かにシルバー人材銀行というふうなことがあるわけでもありますけれども、このシルバー人材銀行の名簿を見ましても、やっぱり80代の方が中心というふうなことでありますし、最近、若い方の60代の方が入っていただけというのは非常に一つの光明だと思っております。ただ、余り過大な期待をしてPPKになっても困ります。びんびんで元気にずっと生きていただかないと日南町はもたないわけでもありますので、余り夏の暑いときに激しい作業をされてPPKにならないように、しっかりシルバー人材も頑張らせていただいて健康で長生きをしていただきたいというふう願うものであります。

○議長(村上 正広君) 関連質問がありますか。

4番、古都勝人議員。

○議員(4番 古都 勝人君) 昨日だったでしょうか、今の介護の人手不足の解消というところで「ガイアの夜明け」とかで特集されておりました、島根県浜田でシングルマザーに期待して募集されて手いっぱい集まられたと。初年度10名で、6名は安定的にやっておられると。2名は子供の都合で、気候の都合で帰られた。あと2名、若干検討しておられるといふことで、今、日本中で浜田モデルという言い方で介護人材を集められた大成功の部

日南町第2回定例29年3月14日

類だと思えます。2年目については、やはり子供の大きさによって夜間勤務の問題、それからやはり体力的な問題で別の職場も宛てがって定住をしてもらったという非常に成功例として近くにあるわけでございまして、本町でも総合戦略でシングルマザー等についてうたっておられます。そういった部分での研究をされて日南型でそういったことができるのかなときのも思ったわけでございまして、そういったことを研究される気持ちがあるのかなのか、お聞かせいただきます。

○議長（村上 正広君）増原町長。

○町長（増原 聡君）浜田のモデルの場合は、たしか軽自動車を1台と住居を無償でというふうな話があったわけでありまして。そういうふうなことを町民の方がいいよというふうに言っていたら、それは本当に非常に私どもとしても、子供さんも含めて考えるならばいいわけですが、仮にどなたかが一言、言葉は悪いですが、よそ者はいいなあとか、そういう話が出たすと、やはりなかなか難しいというふうに思っております。

やはり一番大事なことは、私が言うともた皆さんに怒られそうですけども、日南町だけのものではなくて、広く広く大きな心を持って生き生きとした日南町をつくっていただけるような町になれば本当にいいなというふうに思っております。趣旨としましては本当に大賛成で私はありますので、そういうふうなことが町民として、そういうことをやってもいいじゃないかというふうな声が出ることをまた期待しておりますし、議員の皆さんも、そういうふうな声を拾っていただければ大変うれしく思います。

○議長（村上 正広君）以上で足羽党議員の一般質問を終わります。

以上で一般質問を終わります。

○議長（村上 正広君）本日の議事日程は以上をもって終了いたしました。

お諮りいたします。本日はこれをもって会議を閉じ、散会といたしたいと思っておりますが、これは御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（村上 正広君）御異議なしと認めます。よって、本日はこれをもって会議を閉じ、散会とすることに決定をいたしました。

3月24日の本会議は別に通知をいたしませんので、定刻までに御参集いただきますようお願いをいたします。長時間お疲れさまでした。

午後3時26分散会
